



特別支援学校における

授業改善・校内研究推進 ハンドブック



平成27年 3 月

広島県立教育センター

はじめに

教職員の専門性を高め、授業改善を図る手段として、授業研究があります。

広島県立教育センターでは、平成26年度の研究事業の一環として、広島県の特別支援学校における授業研究の現状と課題を把握するため、アンケートによる調査を行いました。その結果、研究協議の深まり、研究成果を日常生活に活用する方法、研究の進め方、教職員の共通理解と情報の共有に課題があり、学部間でも状況が異なることが分かりました。

研究の進め方は、各校で異なっており、研究の進め方に係る課題を解決するためには、研究推進担当者を中心とし、各校の状況に応じて、研究推進体制を充実させる必要があります。また、研究協議の深まり、研究成果を日常生活に活用する方法及び学部間の違いについては、教職員の共通理解及び情報の共有と関わりがあると考えます。さらに、特別支援学校の授業研究は、組織として取り組む機会が多いため、共通目的をもつことが必要となります。

これらのことから、話合いの場である研究協議を活性化させることが最も重要であると考え、次ページのように、研究協議の活性化を目指した実践モデルを開発しました。この実践モデルを実施することで、研究協議が活性化し、教職員一人一人の能力及び組織力が高まり、特別支援学校における授業を改善する力が高まると考えます。

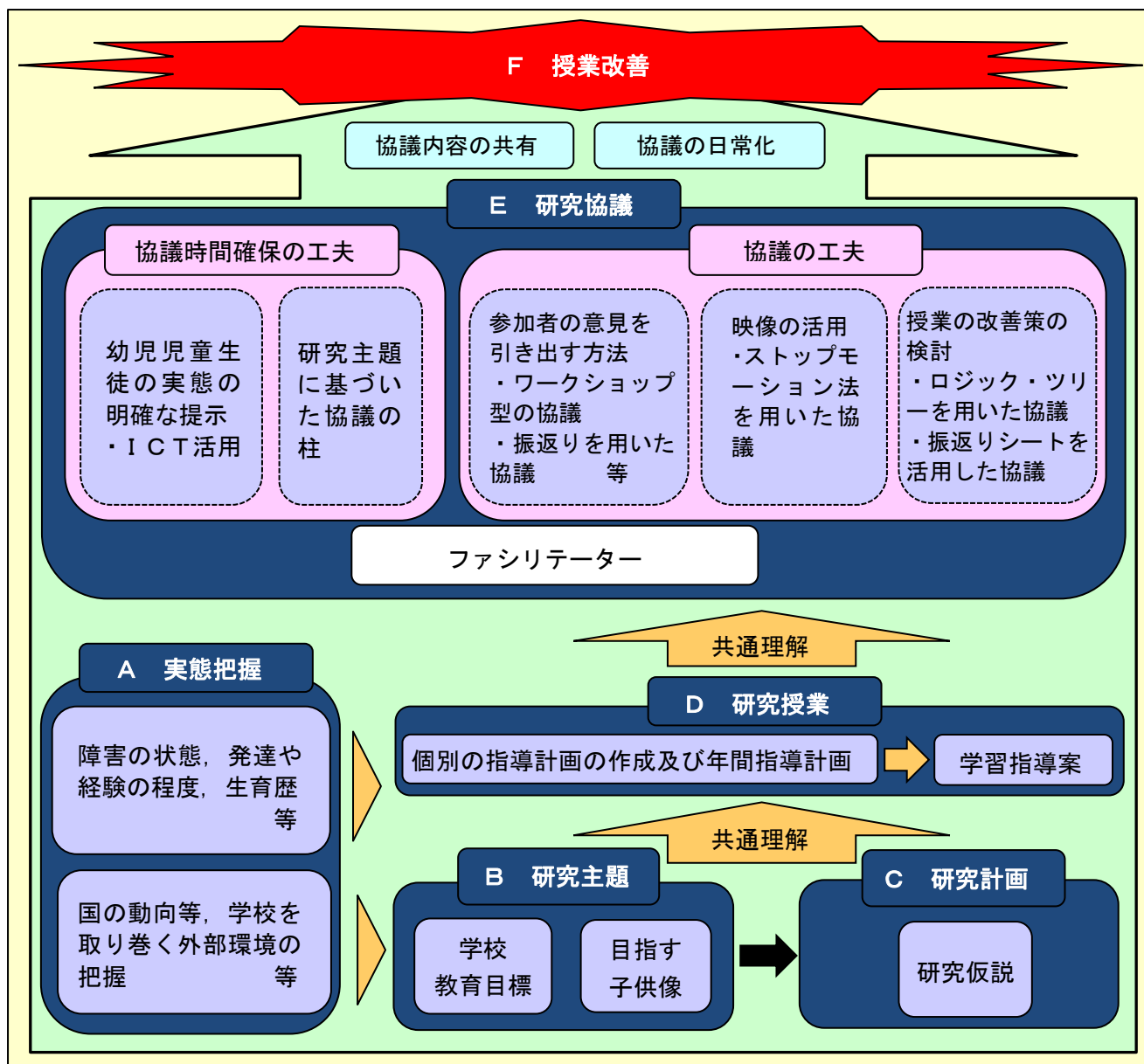
本書「特別支援学校における授業改善・校内研究推進ハンドブック」は、この実践モデルを実施するための指針を示すものとして作成しました。

作成に当たっては、次の点に留意しました。

- Q & A方式で項目を並べ、各学校がより詳しく知りたい項目に関する情報を得やすくした。
- 研究協議等における話合いの場の活性化及び実態に係る情報の共有が重要と考えるため、研究協議については、多くの内容を含むこととした。
- 参考にしやすいように県内特別支援学校での取組を紹介した。

本ハンドブックが、各校の授業改善に役立てば幸いです。

平成27年3月



研究協議の活性化を目指した実践モデル

＜説明＞

- 実態把握（Ａ）として、学校を取り巻く環境及び幼児児童生徒の障害の状態等を把握する。
- 実態把握（Ａ）を分析して、学校教育目標及び目指す子供像を設定する。また、それらを達成する研究主題（Ｂ）を設定する。
- 研究主題（Ｂ）を達成するための研究仮説を設定し、研究計画（Ｃ）を立案する。
- 研究主題（Ｂ）及び研究計画（Ｃ）を教職員に周知し、教職員の共通理解の基、研究を進める。
- 実態把握（Ａ）、研究主題（Ｂ）及び研究計画（Ｃ）を基に、個別の指導計画及び年間指導計画を作成する。また、個別の指導計画等を基に、学習指導案を作成し、研究授業（Ｄ）を実施する。
- 研究授業（Ｄ）の学習指導案検討等を実施し、研究授業について共通理解を図る。
- 研究協議（Ｅ）では、協議の活性化を図る工夫をする。
 - ・ 協議時間を確保する工夫として、ＩＣＴの活用等を通して、幼児児童生徒の実態の明確な提示をする。また、研究主題に基づいた研究の柱を設定する。
 - ・ 参加者の意見を引き出す、映像を活用する及び授業の改善策の検討をする等、協議の工夫をする。
 - ・ ファシリテーター（司会者）の役割を明確にする。
- 研究協議（Ｅ）の内容を共有する。
- 研究協議（Ｅ）において協議内容を共有するとともに、協議の日常化を図り、授業改善（Ｆ）を実施する。

次の項目から自校の授業改善に係り詳しく知りたい項目を選び、該当するページを御覧ください。

1 実態把握（アセスメント）について		
	項 目	ページ
(1)	実態把握（アセスメント）の方法を知りたい。	4
(2)	実施されているアセスメントの例を知りたい。	6

2 研究主題（テーマ）について		
	項 目	ページ
(1)	研究主題（テーマ）を設定したい。	7
(2)	教職員一人一人が、研究主題を理解し、取組を進める研究推進体制を知りたい。	9

3 研究計画について		
	項 目	ページ
(1)	仮説を設定して研究計画を立てたい。	11
(2)	授業研究を年間を通した計画的な取組にしたい。	12

4 研究授業について		
	項 目	ページ
(1)	研究主題に照らしたその授業の工夫・改善点等が示される学習指導案にしたい。	13
(2)	研究授業に向けた事前検討会を実施し、授業観察の視点を共有したい。	16
(3)	授業参観者が授業内容等を評価する「評価シート」等を使用したい。	18

5 研究協議について		
	項 目	ページ
(1)	研究協議で、研究主題に基づいた研究協議の柱を設定したい。	20
(2)	外部（内部）講師を活用したい。	21
(3)	研究協議で、参加者の発言を引き出したい。	23
(4)	研究協議で、研究授業の映像等を有効に活用したい。	30
(5)	研究協議で、研究授業の改善策を検討したい。	34
(6)	ファシリテーター（司会者）の役割を知りたい。	37

6 授業改善について		
	項 目	ページ
(1)	研究協議の内容を、学校全体に共有したい。	38
(2)	研究協議の内容を、その後の取組（授業等）に生かしたい。	39

1 実態把握（アセスメント）について

障害のある幼児児童生徒の教育的ニーズに応じた授業を実施するためには、個々の障害の状態及び発達段階や特性を的確に把握することが重要となります。ここでは、実態把握（アセスメント）の方法と県内特別支援学校が作成したアセスメントを紹介します。

（１）実態把握（アセスメント）の方法

ア 主な実態把握（アセスメント）の方法

- 面接法 …… 保護者、幼児児童生徒及び関係者から直接的に情報を収集する。
- 行動観察法 …… 対象となる幼児児童生徒の行動を観察し、その記録を分析する。
- 検査法 …… 標準化された検査を通して客観的なデータを収集する。

参考：広島県教育委員会（平成19年）：『特別支援教育ハンドブックNo.1』 p.5 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/30773.pdf>

イ 面接法（聞き取り）

- 保護者からの情報
 - ・ 生育歴や教育歴
 - ・ 家族構成や家庭環境
 - ・ 生活の流れ
 - ・ 地域の様子
 - ・ 保護者の悩み
 - ・ 学校に期待すること
 - ・ 保護者の願い
 - ・ 将来の希望 等
- 医学的な情報
 - ・ 医療機関による診断名や病気の有無
 - ・ 医学的検査結果
 - ・ 薬の服用及び発作等の有無など健康管理に関する情報
 - ・ 身体発達の状態

参考：岩手県総合教育センター：『実態把握』 pp.1-2 http://www1.iwate-ed.jp/tantou/tokusi/text/h17_116-02si.pdf

ウ 行動観察法

授業中や休み時間の様子、遊びの様子、テストやノート及び作品等に表現されているもの、教職員及び保護者等が困っていること、学級集団の様子、学校や園の雰囲気、地域性、利用できる学校や地域の資源（人、組織、制度）等について情報を得る。

参考：一般財団法人特別支援教育士資格認定協会編（2012）：『S.E.N.S 養成セミナー 特別支援教育の理論と実践 I 概論・アセスメント』 金剛出版 p.86

工 検査法

標準化された検査を通して、客観的なデータを収集し、障害の状態及び発達段階や特性を明らかにする方法である。知能や発達段階のように直接測定することができないものを心理学的方法論に基づいて測定する検査を心理検査という。

表 標準化されている検査の例

発達検査	○ 遠城寺式乳幼児分析的発達検査 ○ 新版ボーテージ早期教育プログラム ○ KIDS（キッズ）乳幼児発達スケール
知能検査	○ 田中ビネー知能検査 ○ WISC-Ⅳ知能検査 ○ KABC-Ⅱ心理・教育アセスメントバッテリー ○ DN-CAS認知評価システム
言語に関する検査	○ ITPA言語学習能力診断検査 ○ 絵画語い発達検査（PVT） ○ LCスケール言語・コミュニケーション発達スケール ○ J. COSS日本語理解テスト
社会性に関する検査	○ 新版S-M社会生活能力検査 ○ ASA旭出式社会適応スキル検査
運動に関する検査	○ MEPA-ⅡR重症児（者）・重度重複障がい児のムーブメント教育・療育プログラムアセスメント
その他	○ フロスティック視知覚発達検査

辻誠一（2003）を参考に加筆

参考：広島県教育委員会（平成19年）：『特別支援教育ハンドブックNo.1』 pp.5-6

オ 実態把握（アセスメント）の考え方

吉備国際大学の藤田和弘（2004）は、アセスメントの概念を図のように示し、「アとイは子供に関する情報を収集する作業であり、測定はアに相当し主に検査法を用いて、イの質的情報は主に行動観察法や面接法を用いて、これを達成する。

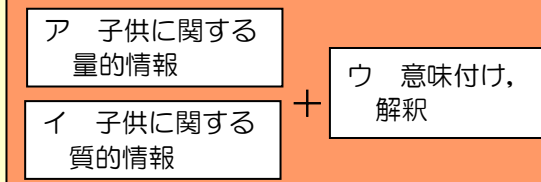


図 アセスメントの概念（藤田和弘，2004）

ウは、アとイで得られた子供に関する客観的情報を意味付け解釈する作業であり、指導に役立つアセスメントを行うために不可欠なものである。」と説明している。

このように、アセスメント（実態把握）とは、集めた情報の意味を考えたり解釈したりしながら総合的に状態を捉えていくことを含んでいる。

参考：広島県教育委員会（平成19年）：『特別支援教育ハンドブックNo.1』 p.5

カ 実態把握（アセスメント）から指導へ

面接、行動観察及び検査等の様々な方法で、幼児児童生徒の障害の状態、発達段階等に関する情報を集め、それらの情報を実態票に記入し、総合的に幼児児童生徒の状態を捉える。

こうした実態把握に基づき個別の指導計画や個別の教育支援計画を作成し、それに基づく指導・支援を通して、さらに必要な情報を補い、個別の指導計画や個別の教育支援計画を見直していくことが大切である。

参考：広島県教育委員会（平成20年）：『特別支援教育ハンドブックNo.2』 p.8 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/45681.pdf>

(2) 県内特別支援学校が作成したアセスメント

福山特別支援学校は、「重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト ―認知・コミュニケーションを中心に―」を作成し、児童生徒の実態把握に努めています。

次は、コミュニケーションの力をアセスメントするためのチェックリストである。

領域として、コミュニケーション分野を中心とした領域、認知分野を中心とした領域がある。また、身体の動き等を簡易的にアセスメントする補助項目を設定している。

5 領域の主な内容

分 野	領 域	内 容
コミュニケーション	要求表出	要求表出の基礎となる力から言葉での要求までについての領域
	人間関係	支援者との人間関係や社会性についての領域
認知	聴覚・言語	聴覚・言語面での認知・理解・応答についての領域
	触覚等	主に触覚に関することで、物の認知や簡単な操作についての領域
	視覚等	主に見ることの発達や目と手の協応の発達についての領域

身体の動き等

健康の状態	日々の覚醒や体調について
上肢の操作	上肢の操作性について
身体の操作	粗大運動など身体の操作について
構音機能	発声、喃語等の構音機能面について

アセスメントリスト抜粋

区分 番号	発達 段階	項目	で き な い	時 々 で き る	お お よ そ で き る	で き る	記述欄	マニ ュ アル	総 番 号
1	I	突然の音にびくつとする。							96
2	I	音がしたこと、止まったことに気づく。							97
3	I	トントントンなどの、一定のリズムを好む。							98

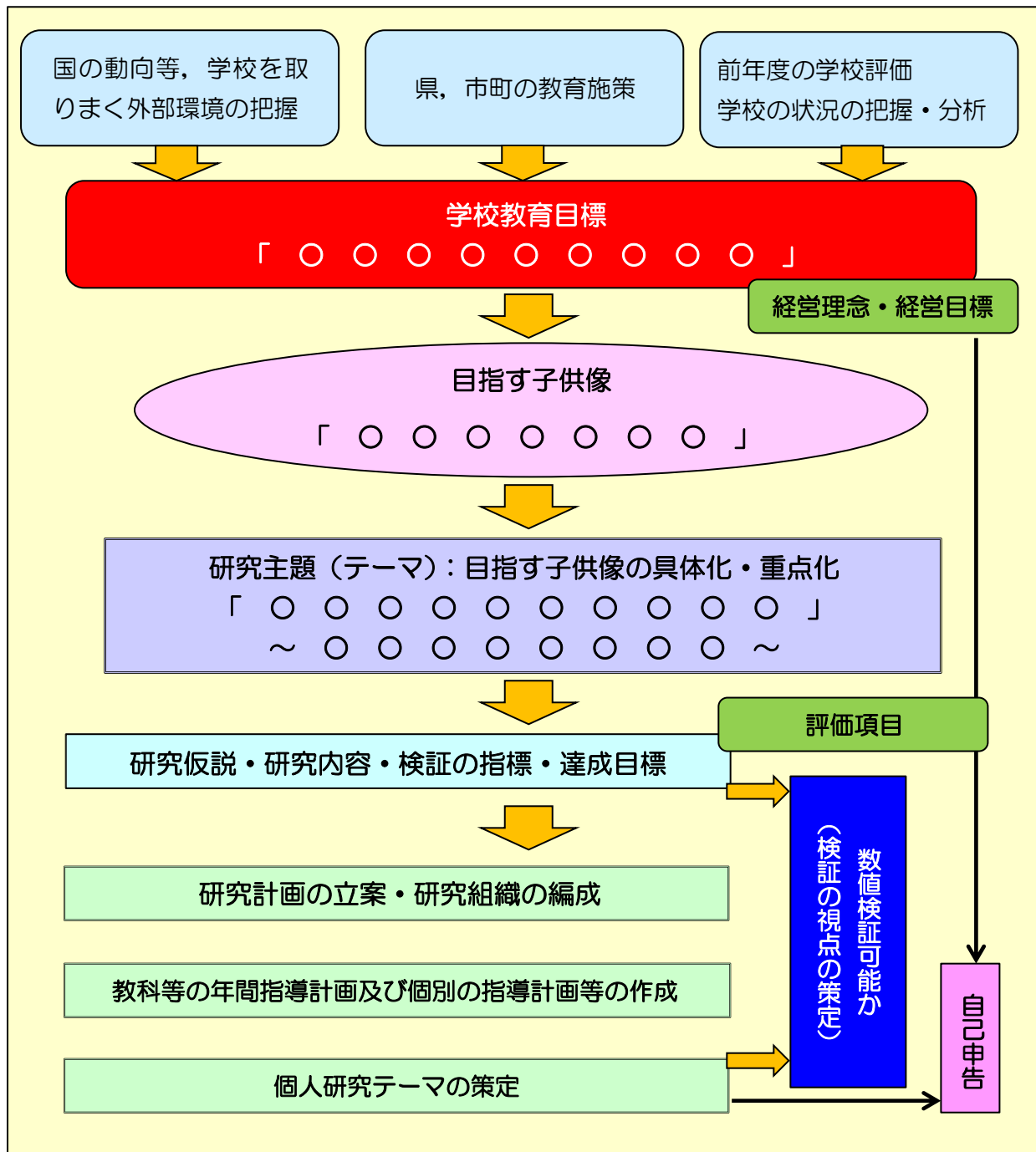
参考：広島県立福山特別支援学校（平成27年）：『重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト ―認知・コミュニケーションを中心に―』 http://www.fukuyama-sh.hiroshima-c.ed.jp/kyouken/H260805asesument/asesument_sasshi.pdf

2 研究主題（テーマ）について

（１）研究主題（テーマ）の設定

ア 学校教育目標から研究主題（テーマ）立案への手順

研究主題（テーマ）の立案において最も大きな拠り所は、学校教育目標です。学校教育目標及び目指す子供像を具体化する過程において、研究主題（テーマ）が設定されます。



参考：広島県教育委員会（平成15年）：『授業改善のための校内研修ハンドブック』 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/O5junior-1st-h15k-kounai-index.html>

広島市教育センター（平成18年）：『授業研究ハンドブックⅡ』 p.9 <http://www.center.edu.city.hiroshima.jp/kennkyu/file/kenkyu/2005/O5handbook2.pdf>

イ 研究主題（テーマ）の分類（研究の方向性の明確化）

研究主題は、大きく次のように分類できます。こうした分類により、研究の方向性が明確になります。

- 課題解決指向的テーマ（ここが問題だから改善したい）
- 目標指向的テーマ（こういう幼児児童生徒に育てたい）
- 開発的テーマ（新しい指導方法を研究したい）

参考：広島県教育委員会（平成15年）：『授業改善のための校内研修ハンドブック』

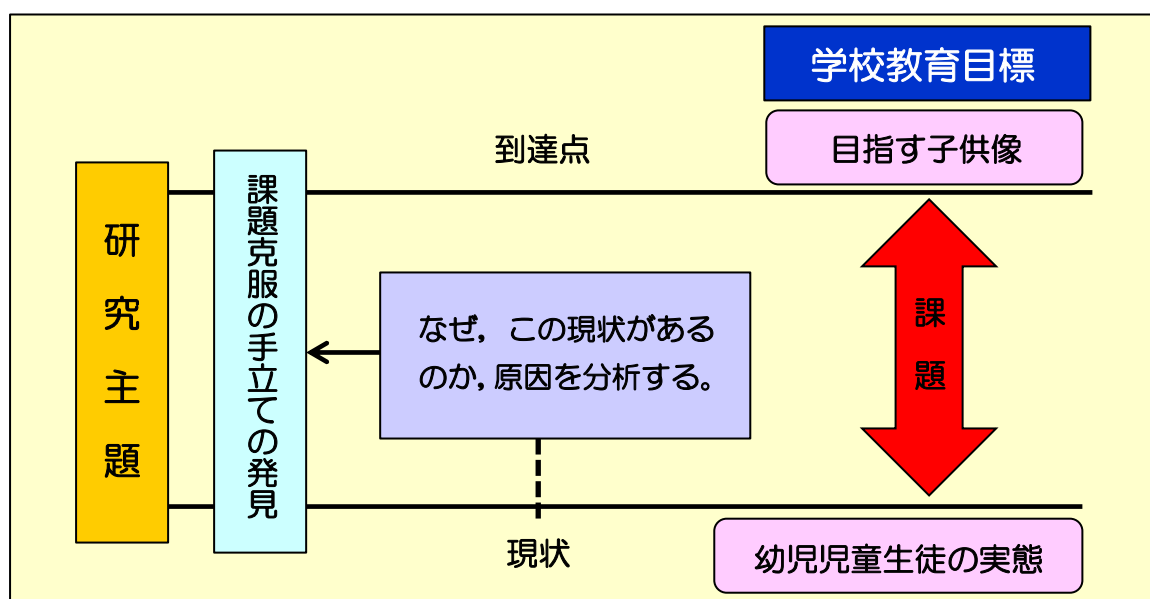
ウ 研究主題（テーマ）の要件

- 時代や社会の教育への要請を反映し、数年先の先導的志向性をもつもの
- これまでの学校の特色や取組を生かしたり関連させたりできるもの
- 教科等や学年の違いを超えて、具体的で共通に取り組めるもの
- 焦点化された、具体的な取組や成果の検証が見通せるもの

参考：広島県教育委員会（平成26年）：『広島県教育資料』 p.183 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/123007.pdf>

エ 目指す子供像を具現化・重点化する方法

前ページの図に示したように、目指す子供像を具現化・重点化し、研究主題（テーマ）を設定します。



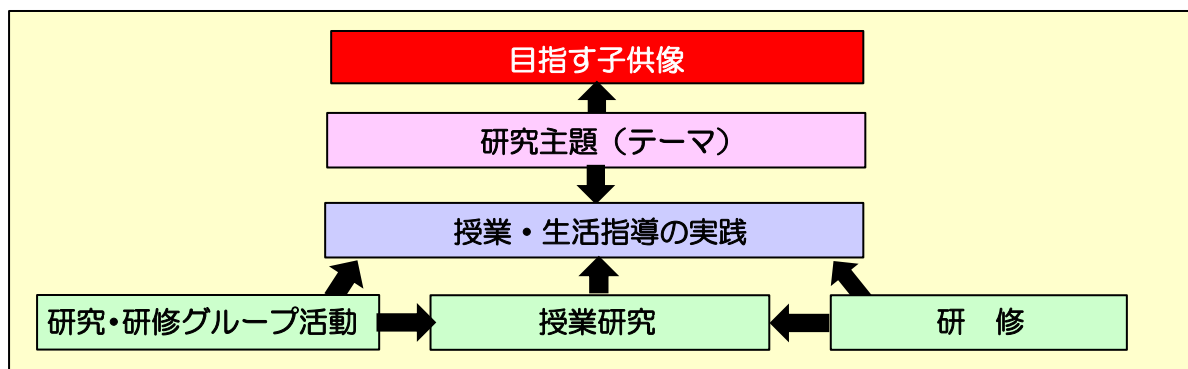
参考：広島県立教育センター（平成26年）：『授業研究ハンドブック』 p.4 <http://www.hiroshima-c.ed.jp/web/handbook/jyugyoukenkyuu/handbook.pdf>

(2) 研究推進体制について

教職員一人一人が、研究主題を理解し、取組を進めている例として、次の3校の研究推進体制を紹介します。

○ 広島中央特別支援学校（平成26年度）

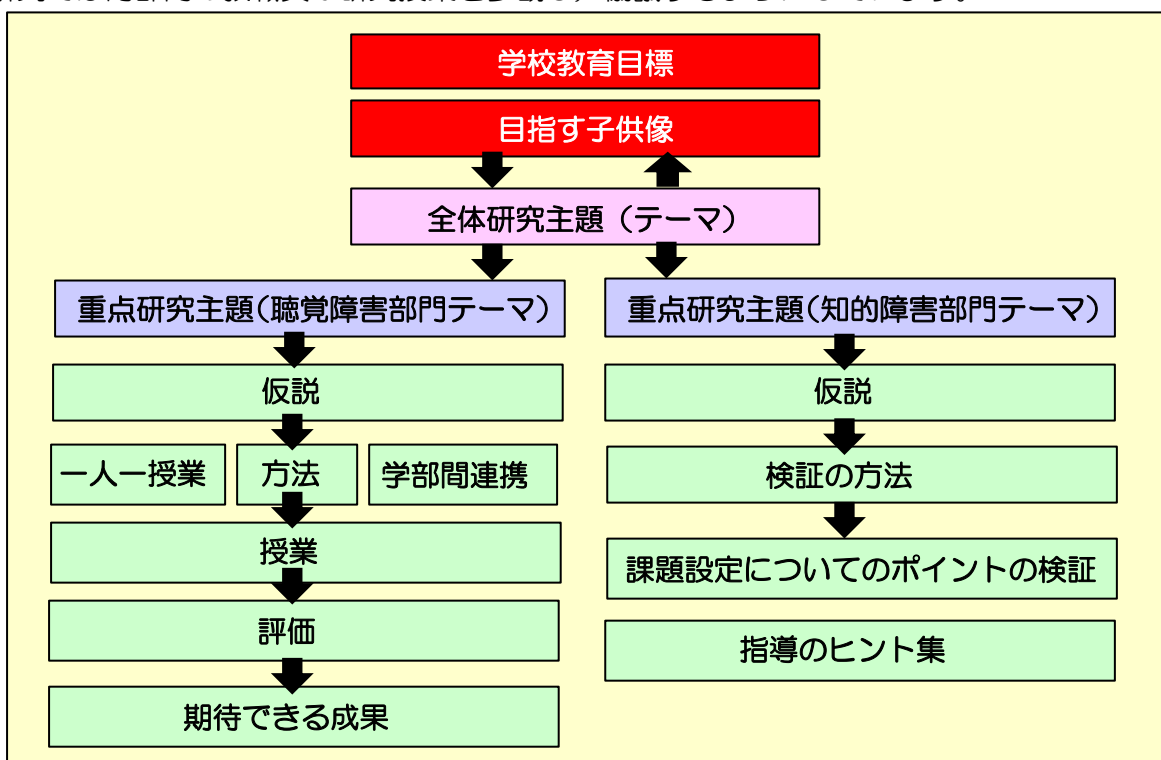
広島中央特別支援学校の特徴は、研究・研修グループ活動を実施しているところです。グループ等で、研究主題（テーマ）に沿った研究をする中で、目指す子供像の実現に取り組んでいます。



参考：広島県立広島中央特別支援学校（平成27年）：『研究紀要第26号』 p.10 http://www.hiroshima-sb.hiroshima-c.ed.jp/research/kenkyu/H26/H.26_kenkyu_kiyou.pdf

○ 尾道特別支援学校（平成26年度）

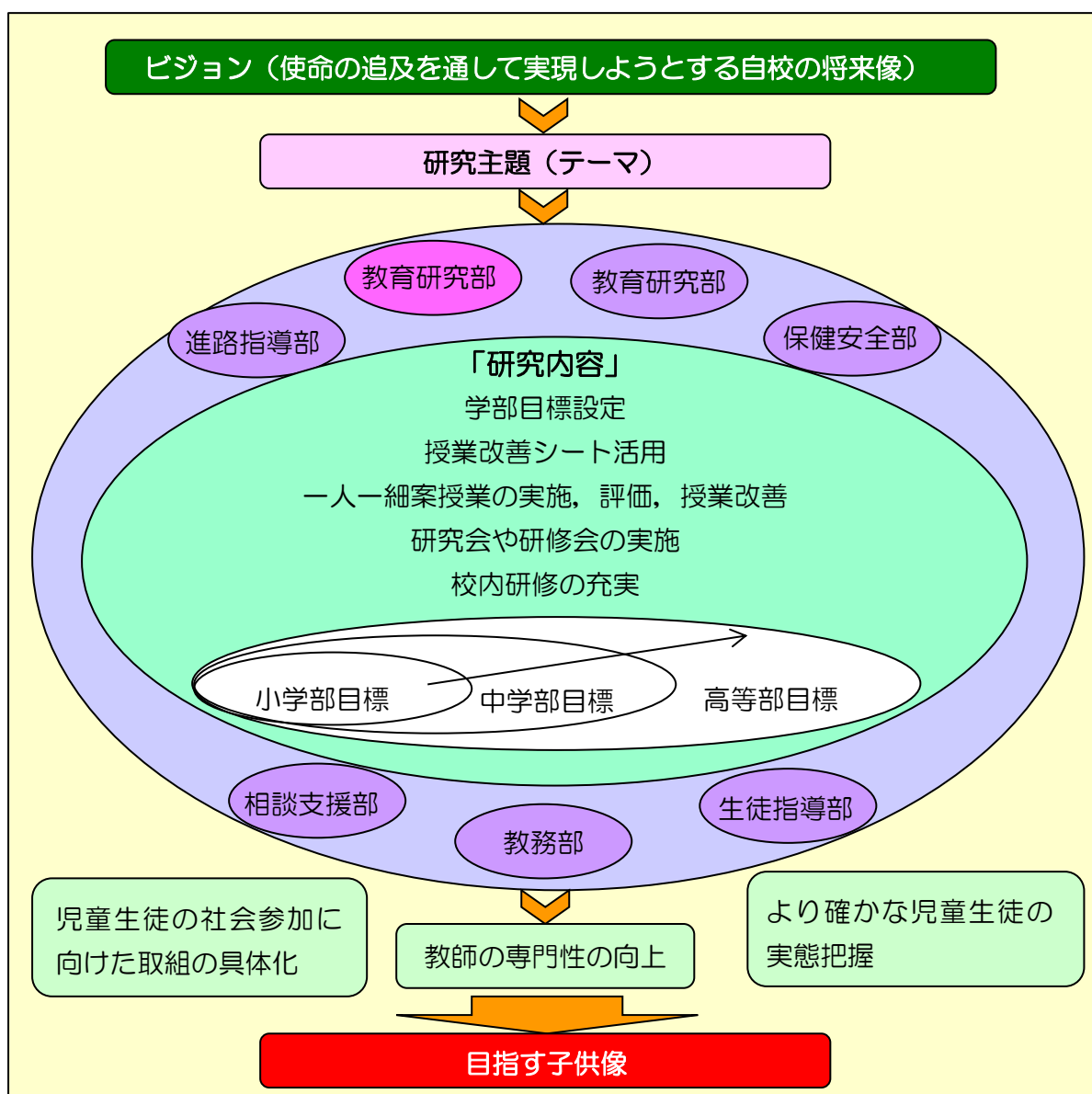
尾道特別支援学校は、聴覚障害部門と知的障害部門を併置しています。その特色を活かし、校内授業研究では両部門の教職員が研究授業を参観し、協議するようにしています。



参考：広島県立尾道特別支援学校（平成26年）：『授業改善』 <http://www.onomichi-sd.hiroshima-c.ed.jp/zyugyoukaizen/zyugyoukaizen.html>

○ 沼隈特別支援学校（平成26年度）

沼隈特別支援学校の特色は、学部ごとに研究目標を設定し、その目標を記載した各学部専用の学習指導案や授業改善シート（p.41 参照）を作成していることです。また、学部だけでなく、学部を超えた分掌でも研究主題（テーマ）を意識した取組を行っています。



参考：広島県立沼隈特別支援学校（平成26年）：『平成26年度研究構想図』 <http://www.numakuma-sh.hiroshima-c.ed.jp/kenkyu/h26/h26kenkyuu/h26kousou.pdf>

3 研究計画について

研究主題（テーマ）が決まったら、研究仮説を設定します。その際、先行研究等を検索することにより、有効な手立てが導き出されるとともに、協働で取り組むことで、研究主題（テーマ）について理解を深めていくことになります。

（１）研究主題（テーマ）に関連する研究の仮説を整理する例

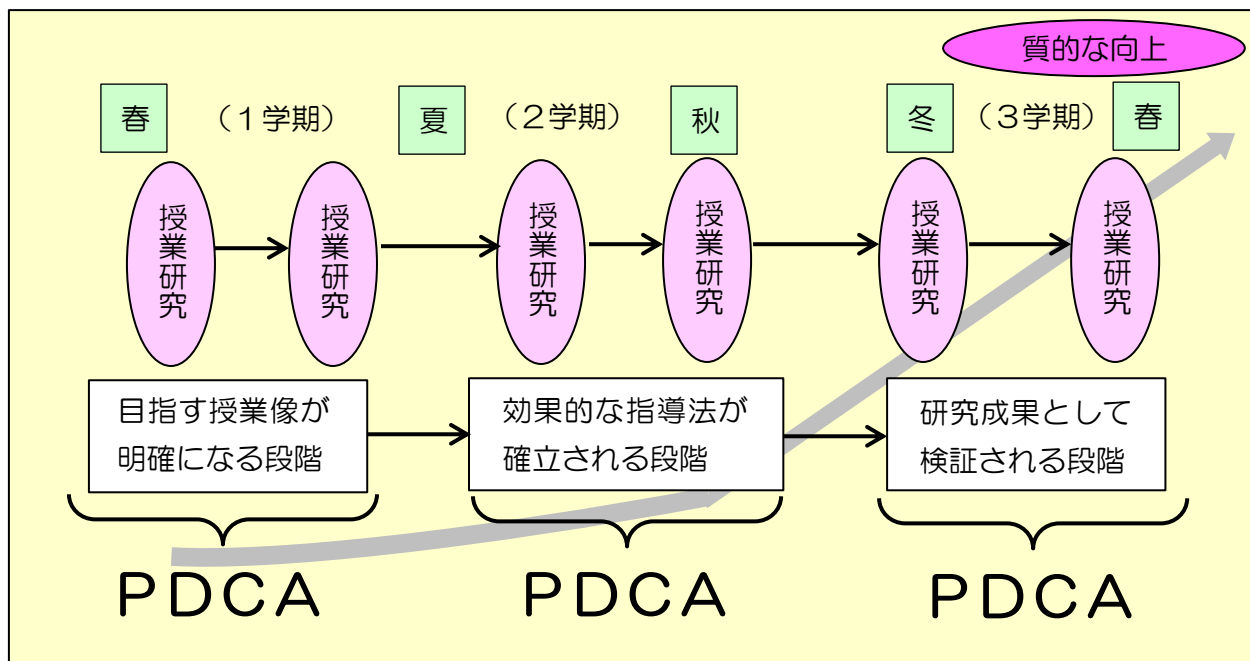
研究主題（テーマ）に関連する研究論文の仮説を整理するシート	
研究主題 （テーマ） 設定理由	《記入例》 幼児児童生徒のコミュニケーション能力の向上を図る ー 客観的な発達評価基準表の作成を通して ー
研究仮説	《記入例》 コミュニケーションにおける客観的な発達評価基準をもてば、幼児児童生徒の実態把握が適切となり、具体的な目標や指導方法を設定して教育内容を実践することができるであろう。その結果、幼児児童生徒のコミュニケーション能力の向上が図られるのではないか。
検証方法	《記入例》 ○ 実践による内容の検証 ・ 教職員の働き掛けに対する、幼児児童生徒の反応を調べる。
検証結果	《記入例》 幼児児童生徒を見る視点が増え、実態把握への意識が向上した。 教職員の働き掛けに対する、幼児児童生徒の反応回数が増えた。
考え方の根拠としていた研究者 《記入例》 重度・重複障害児のコミュニケーション学習の実態把握と学習支援 小池・雲井・吉田 重症心身障害児の認知発達とその援助 片桐・小池・北島 重度・重複障害児の対人交渉における共同注意 徳永	

参考：広島県立教育センター（平成26年）：『授業研究ハンドブック』 p.6

(2) 年間研究計画

年間研究計画作成に当たっては、あらかじめ短期（学期ごと）のねらいや到達目標を作成して、短期サイクルごとにその進捗状況を分析・考察し、確実なステップアップを図ることが大切です。

ア 授業研究を中心とした校内研修の実施例



参考：広島県教育委員会（平成15年）：『授業改善のための校内研修ハンドブック』

イ 年間研修計画の改善の留意点

- 短期のサイクルに基づき年間研修計画の見直しをする
研修の見直しができるよう、短期サイクルの評価を基に、その都度、授業提案の計画を見直しながら実施する必要がある。したがって、年度当初、立案した年間研修計画を見直しながら、校内研修を進めていくことが大切である。

参考：広島県教育委員会（平成15年）：『授業改善のための校内研修ハンドブック』

4 研究授業について

(1) 学習指導案づくり

学習指導案は、授業者自身の計画案であるとともに、参観者に対して授業のねらいが明確に伝わり、後の研究協議に生かせるよう工夫する必要があります。

ア 学習指導案の様式参考例

○○○○学習指導案

指導者 ○○○○ (T1)
○○○○ (T2)

- 1 日時, 場所
- 2 学部, 学年, 学級
- 3 単元 (題材) 名
- 4 単元 (題材) 設定の理由
 - 幼児 (児童) (生徒) 観 ⇨ 研究主題 (テーマ) 及び仮説に係る既習経験や現状など、幼児児童生徒の実態を書く。
 - 単元 (題材) 観 ⇨ 研究主題 (テーマ) を踏まえたねらい及び課題解決の手立てをどのように位置付けるかを書く。
 - 指導観 ⇨ ねらいを達成するための手立て等を具体的に書く。
- 5 単元 (題材) の目標 ⇨ 研究主題 (テーマ) 及びねらいと課題解決の手立てに位置付けて書く。
- 6 指導計画〔全〇時〕
- 7 本時の目標
 - 全体の目標
 - 個々の目標

幼児 (児童) (生徒)	これまでの様子	目 標
A		
...		
- 8 準備物
- 9 学習過程

学習活動	指導上の留意点 (□課題, ○支援, ☆評価)		
	A	...	全体
- 10 評価の観点 ⇨ 研究主題 (テーマ) 及びねらいと課題解決の手立てに位置付けて書く。
- 11 年間指導計画
- 12 教室内配置図

参考：広島県教育委員会 (平成18年)：『盲・ろう・養護学校授業改善ハンドブック』 p.8 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/30683.pdf>

広島市教育センター (平成18年)：『授業研究ハンドブックⅡ』 p.10

イ 学習指導案作成のポイント

- 幼児児童生徒の状況を分析する。
- 幼児児童生徒の状況を踏まえ、目標と評価を設定する。
- 研究主題に照らし、授業における工夫改善の視点を明確にする。

参考：広島県教育委員会（平成15年）：『授業改善のための校内研修ハンドブック』

ウ 学習指導案の作成上の留意点

（ア）児童（幼児）（生徒）観

- 学級を構成している人数
- 障害の状態、発達の様子及び特性
- 単元（題材）に対する興味・関心及び経験
- 単元（題材）に対する技能等

幼児児童生徒の実態は
こうだ！

※ 単元（題材）について、ここでは全体的に示し、「本時の目標」の「これまでの様子」で詳細に示す場合もある。

参考：広島県教育委員会（平成18年）：『盲・ろう・養護学校授業改善ハンドブック』 p.12-13

（イ）単元（題材）観

- ねらいを達成できる理由等

※ 文末表現例

「～をねらうことができる。」

「～が期待できる。」

「～を高めるために適している。」

「～しやすい。」

「～できると考える。」

だからこの単元（題材）を
設定した！

参考：広島県教育委員会（平成18年）：『盲・ろう・養護学校授業改善ハンドブック』 p.12-13

（ウ）指導観

- 指導方法、留意事項等

※ 文末表現例

「～する。」

「～していく。」

「～したい。」

「～させたい。」

指導に当たっては
こうしたい！

参考：広島県教育委員会（平成18年）：『盲・ろう・養護学校授業改善ハンドブック』 p.12-13

(エ) 本時の目標

- 評価できる具体的な目標（具体的な動き、場面・条件など）
- ※ 目標の改善例
 - 「行き方が分かる。」
 - 「行き方のカードを指差すことができる。」
 - 「行きたいところを決めることができる。」
 - 「指導者の示した写真を選ぶことで、行きたいところを決めることができる。」
 - 「指導者とのやりとりを楽しむ。」
 - 「指導者に対して手を伸ばしたり、物を渡したりすることができる。」

こんな目的（付けたい力、配慮事項等）から
このようにする！

(オ) 指導上の留意点「支援」

- 目的及び支援方法等
- ※ 文末表現例
 - 「～させることを通して～させる。」 「～のために（幼児児童生徒に）～させる。」
 - 「～のために（指導者が）～する。」

参考：広島県教育委員会（平成18年）：『盲・ろう・養護学校授業改善ハンドブック』 p.13

(カ) 指導内容の一貫性

- 個別の指導計画 > 単元の目標 > 本時の目標
- 全体の目標 > 個々の目標
- 本時の目標 ≡ 指導上の留意点「評価」
- 自立活動の目標等については常に考慮すること。

(キ) 文章表記等の留意点

- 主語と述語を明確にし、統一すること。前半の主語が指導者、後半の主語が幼児児童生徒の場合などが多い。
誤文例： やり方を写真で提示することにより、作成の順番を知ることができる。
- 「～したり」は「～したり～したり」と繰り返すときに使用する。
誤文例： ノートに書いたり、指で示すことができる。
- 「きちんと」「しっかり」などの抽象的な表現は、程度が曖昧なので、目標等にはなるべく使用しないこと。
誤文例： 黒板にきちんと貼ることができる。

(2) 学習指導案事前検討会

授業の事前検討会を行うことで、問題点を具体的に把握し、課題を修正することができ、より質の高い授業研究となります。

ア 学習指導案事前検討会の例

- 検討会前の準備
 - ・ 授業者は、検討会前日までに、参加者に学習指導案を配付する。
 - ・ 参加者が、学習指導案を読むときに次の点に留意する。
 - 研究主題を踏まえているか。
 - 幼児児童生徒の実態を踏まえ、身に付けさせる内容等が明確になっているか。
 - 指導方法は効果的か、工夫は見られるか。
 - 本時の目標、評価、学習展開及び時間配分等は適切か。 等
- 検討会
 - ・ 授業者は、幼児児童生徒の実態、本時の目標、学習過程、指導方法及び評価等について説明する。
 - ・ 学習指導案を読むときの視点を基に、よりよい授業にするための方法を検討する。

参考：名古屋市教育センター（平成23年）：『自ら授業力を高める校内研修マニュアル』 p.39
http://www.kyosen.nagoya-c.ed.jp/kenkyu/center_kenkyu/h2122/22pdf/h22hatupiyou-houkokusyo-siryou-etc/h22-1iken/h22-konaikensyu-maniaru.pdf

イ 学習指導案の例

○ 広島特別支援学校（学習指導略案）

指導者が研究主題について工夫した点、授業の見どころを掲載しています。

○○科学習指導案

指導者：

学部・学年

日時・場所

教科・領域名

単元（題材）名・単元（題材）設定の理由

単元（題材）の目標・単元の計画

本時の目標

本時の学習過程

今日の授業は、ここを見てください！
（主体的な姿や工夫した教材など）

学習活動	指導上の留意事項	準備物など 評価規準（観点）、評価方法

単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解

○ 庄原特別支援学校（学習指導略案）

学習指導略案に評価欄を設けています。「評価」の欄には目標を達成したかどうかという「目標の達成度」について記入しています。「目標設定」の欄には目標は低くなかったか、高すぎなかったかどうかという「目標の妥当性」について記入しています。「手立て」の欄には、支援の手立てが有効であったかどうかという「支援の有効性」について記入しています。また、各評価はA～Dの4段階で行っています。

学習指導略案											
日時・場所				指導者 職氏名							
学部学年等				授業形態				教科等			
単元・題材名						第 ○／○時					
本時の目標 (学習集団)		・授業の山場に焦点 ・含まれる教科名も記入				評価		目標 設定		手 立 て	
規 準 個 々 の 評 価	A	・含まれる教科名の記入（本時の目標欄と揃える） ・各教科の特別支援学校学習指導要領のどの段階にあたるか									
	B										
	C										
	D										
前回からの 改善点						関	思	技	知		

目標の達成度：A 達成できた、B ほぼ達成できた、C 一部達成できた、D 達成できなかった
 目標の妥当性：A 適当であった、B 目標が低すぎた、C 目標が高すぎた、D 適当でなかった
 支援の有効性：A 有効であった、B ほぼ有効であった、C 一部有効だった、D 適切でなかった

過程	時間配分	学習活動	指導上の留意点

反省・気づき等（手立てを振り返り、次時への改善点を記入する。）

参考：広島県立庄原特別支援学校（平成27年）：『平成26年度 研究紀要』

(3) 授業評価シートの例

研究授業だけでなく、日常的に授業を参観し、気づきを授業者に伝え、授業改善に生かす学校が増えていきます。その際、活用している「授業評価シート」等を紹介します。

○ 広島特別支援学校

授業参観コメントシート				
				記入者 ()
学部・学年・類型		場所		授業者
教科・領域		日時		
単元・題材名		本時の目標		
学習の流れ	生徒A	生徒B	気づき	
			気づきを記入	

○ 庄原特別支援学校

授業参観シート

平成 年 月 日 ()
 () 校時
 教科等 ()

部 先生へ

ここがよかったです！

【内容について】

【方法について】

こうしたら、もっとよくなると思います！！
 私なら、こうします！！

【内容について】

【方法について】

発見しました！！

児童生徒の主体的な姿

ひとこと感想

参考：庄原特別支援学校（平成26年）：『平成26年度庄原特別支援学校 公開授業研究会 平成26年度 研究報告』 http://www.shobara-sh.hiroshima-c.ed.jp/kenkyu/H26kenkyu_hokoku.pdf

- 18 -

○ 広島中央特別支援学校（個人授業研究用）

授業コメントシート ～個人授業研究用～	
授業参観者氏名：（ ）	日時：（ ）月（ ）日
授業科目名：（ ）	担当授業者氏名：（ ）
次の観点等を参考にコメントをお願いします。	
研究主題「 ☆ 視覚障害やその他の障害に基づく指導の工夫がされていたか。 ☆ 該当教科や領域の目標に基づく工夫がされていたか。 ☆ 意欲を引き出し高めたり、学習の理解を促したりする環境が整えられていたか（教室環境、教材・教具等）。 ☆ 意欲を引き出し高めたり、学習の理解を促したりする活動設定となっていたか（授業展開、明確なめあて・目標設定と評価等）。 ☆ 意欲が引き出されたり、高まったりしている場面が見られたか。 ☆ その他。	
☐ 授業観察で学んだ事項 ☐ ちょっとアドバイス	

参考：広島県立広島中央特別支援学校（平成26年）：平成26年度広島県立教育センター専門研修講座「特別支援学校における授業研究の進め方」講座資料

○ 広島中央特別支援学校（研究授業用）

授業コメントシート	
授業参観者氏名：（ ）	日時：平成（ ）年（ ）月（ ）日
授業科目名：（ ）	担当授業者氏名：（ ）
★ 該当する項目にコメントしてください ★	
Ⅰ 心理的側面（幼児児童生徒の興味・関心・意欲・態度等に関して）	
《観点》 ○幼児児童生徒の学習の様子（学習指導案との関連） ○学習の雰囲気をもつて教員の働きかけ（発問、指示、説明等のことばがけ） ○教材・教具の工夫（幼児児童生徒が意欲・関心をもつような学ぶ手だてや工夫）	
Ⅱ 教科的側面（関連する、または該当教科の目標・内容について）	
《観点》 ○授業構成（導入・展開・まとめの一連の流れの適切さ） ○学習指導案（教科目標の達成、「個別の指導計画」との関連） ○評価内容・方法（幼児児童生徒の実態と授業のねらいの妥当性） ○板書計画、ノート計画（幼児児童生徒にとっての分かりやすさ）	
Ⅲ 自立活動・技術的側面（自立活動との関連及び幼児児童生徒が享受する技術的側面について）	
《観点》 ○指導内容、指導方法、支援方法（幼児児童生徒の実態からの適切さ）	
Ⅳ その他	
《観点》 ○提示物及びその提示方法（資料、教育機器等の有効な活用法） ○準備物（幼児児童生徒の実態からの適切さ） ○テーマとの関連（自ら考え自ら動く幼児児童生徒の育成）	

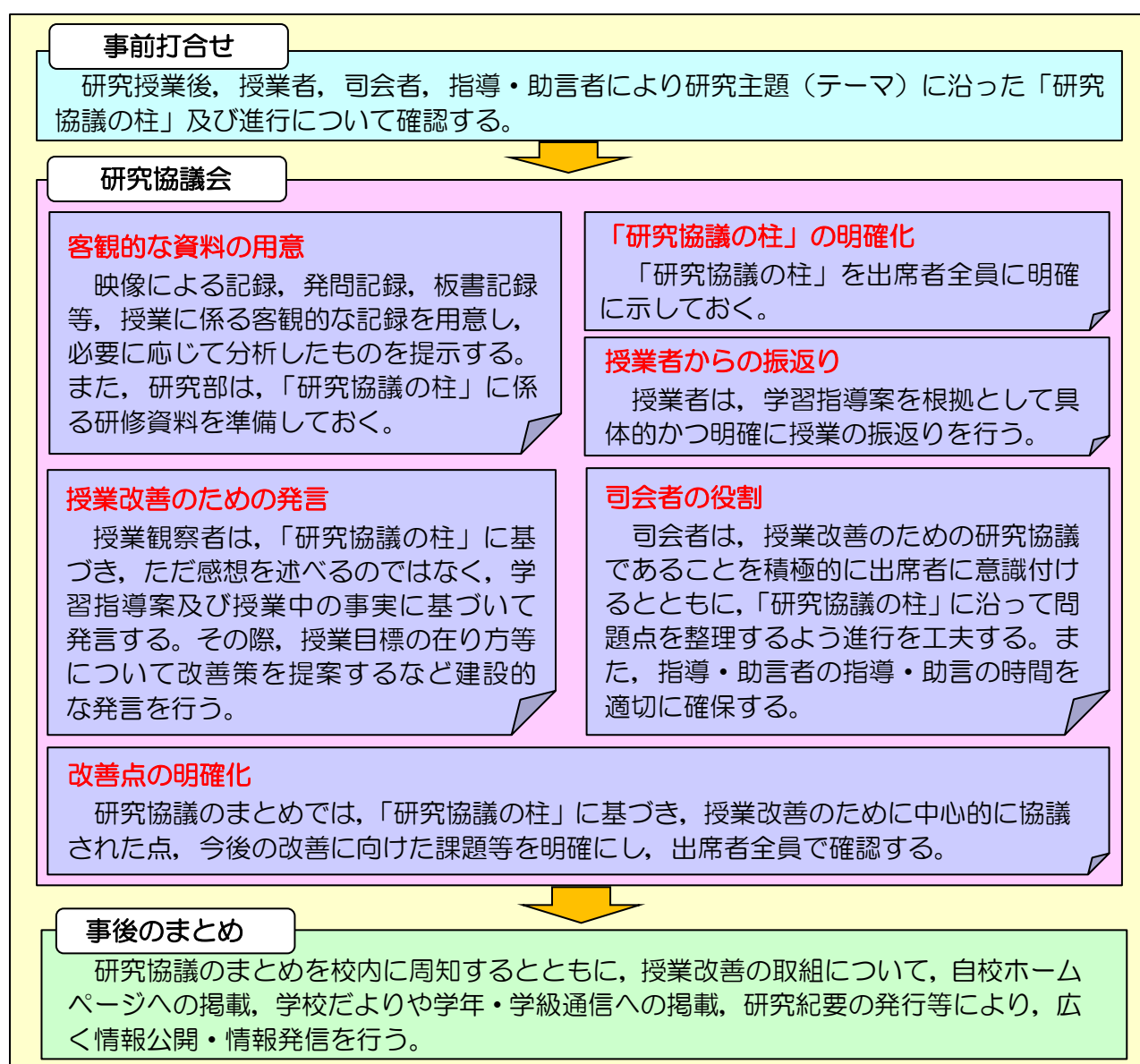
参考：広島県立広島中央特別支援学校（平成26年）：平成26年度広島県立教育センター専門研修講座「特別支援学校における授業研究の進め方」講座資料

5 研究協議について

特別支援学校では、複数の教職員が授業を担当することが多いです。そのため、幼児児童生徒の実態把握及び指導目標等を共通理解することが求められます。組織として共通理解を図る方法の一つとして、研究協議があります。研究協議を活性化させる方法を紹介します。

(1) 研究協議の柱の設定

研究協議の柱を設定して協議を実施します。



参考：広島県教育委員会（平成18年）：『盲・ろう・養護学校授業改善ハンドブック』 p.20

(2) 外部（内部）講師の活用

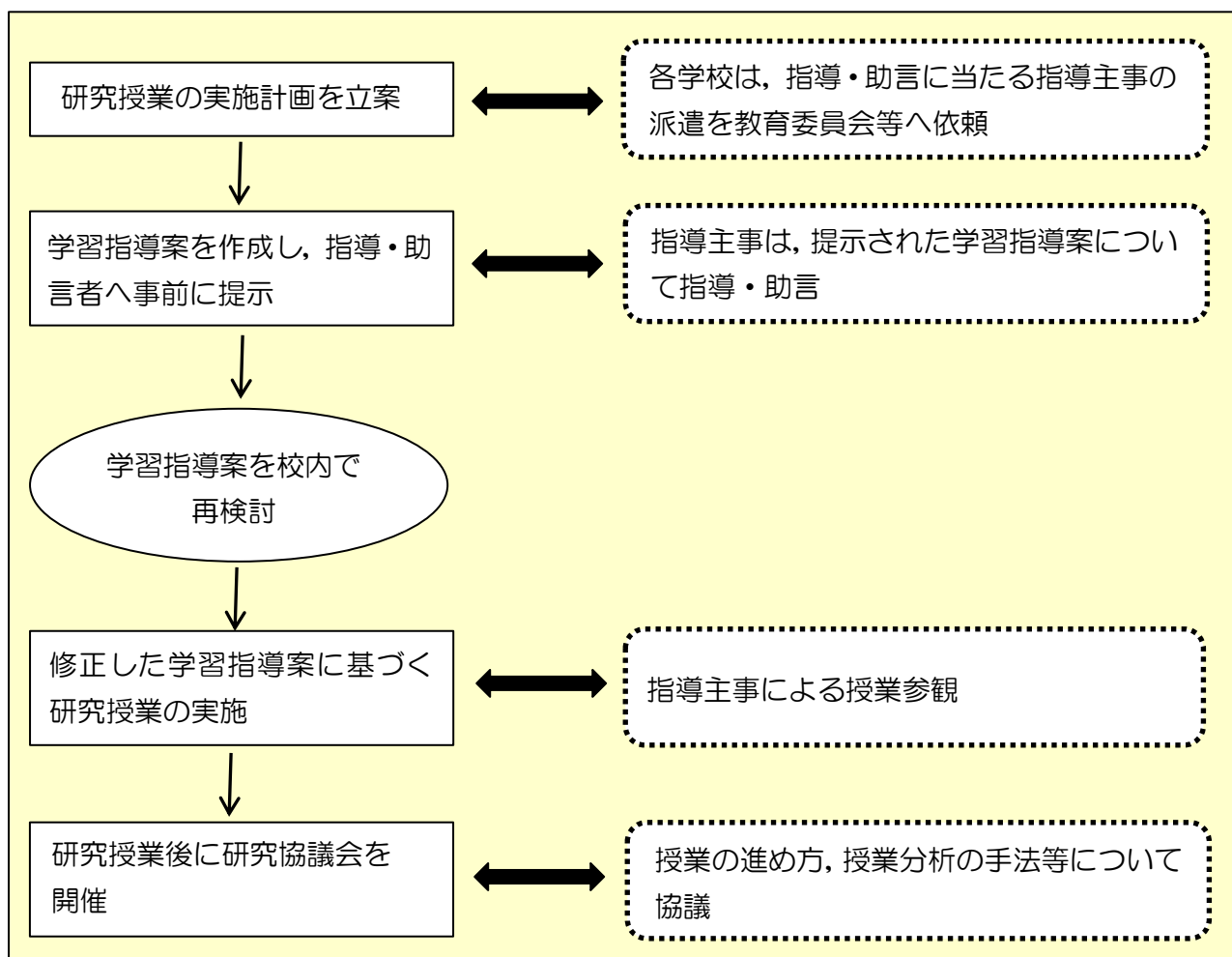
専門的な見地からの助言は、新たな気付きになります。客観性のある第三者の評価を得ることで、授業改善につなげ、校内研修をより充実したものにすることができます。

ア 外部講師活用のポイント

- 外部講師の選定に当たっては、自校の教育実践に活力を与えてくれる人材を検討する。
- 外部講師としては、大学の研究者や指導主事はもちろん、他校の校長、教頭、部主事及び指導教諭、研究先進校の研修主任等さまざまな人材を検討する。
- 外部講師には事前に学習指導案を送付し、授業のねらい等について理解してもらう必要がある。可能であれば、学習指導案事前検討会でも指導・助言を受ける。
- 一つの授業研究において複数の講師招聘ができれば、さらに充実する。
- 研究協議会での助言だけでなく、協議会の前後の時間も打ち合わせ等に活用する。

参考：広島県教育委員会（平成15年）：『授業改善のための校内研修ハンドブック』

イ 指導主事を指導・助言者とした研究授業の実施（例）



参考：広島県教育委員会（平成15年）：『授業改善のための校内研修ハンドブック』

ウ 内部講師活用のポイント

特別支援学校は、教科・領域等に係る専門性に加え、障害種別において高い専門性を有する教職員がいます。これらの教職員を内部講師として活用することが考えられます。

○ 内部講師を活用した校内研修の企画運営の手順例

【Plan】

- 教職員一人一人の研修ニーズの把握
 - ・ 管理職や研究推進担当者との協議
 - ・ 校内研修の年間計画の確認
 - ・ アンケートによる教職員の研修ニーズの把握
- 研修担当者（内部講師）との調整
 - ・ 研修のねらい、内容、時期などの調整
 - ・ 研修方法（ワークショップ型、実技演習形式）、準備物、協力体制等の確認

【Do】

- 内部講師による校内研修の実施
 - ・ 実施スタッフによる協力体制
 - ・ 研究推進担当者としての助言・アドバイス
 - ・ 管理職による助言
 - ・ 教職員の積極的な参画

【Check】

- 研修成果の評価
 - ・ 研究協議や評価シート等による振り返り

【Action】

- 研修の評価をふまえた改善
 - ・ 改善策の検討

参考：長崎県教育センター（平成25年）：『校内研修のてびき【特別支援学校版】よりよい学校づくりを目指した計画的・組織的・継続的な校内研修の推進』 p.26 http://www.edu-c.pref.nagasaki.jp/kounaiken/tebiki/H25.3.28_完成版_校内研修のてびき【特別支援学校版】.pdf

○ 内部講師を活用した校内研修会の例

研修名	担 当	研 修 内 容
A	自立活動部主任	「姿勢に関する実態把握の視点」
B	自立活動部員	「座位・立位の指導」
C	自立活動部員 学級担任2名（事例報告者）	「摂食機能を踏まえた食事指導」
D	部主事 学級担任2名（事例報告者）	「コミュニケーション指導」
E	自立活動部主任・学級担任	「教材・教具の工夫」

参考：長崎県教育センター（平成25年）：『校内研修のてびき【特別支援学校版】よりよい学校づくりを目指した計画的・組織的・継続的な校内研修の推進』 p.27

(3) 参加者の発言を引き出す研究協議の例

「研究協議で活発な交流が見られない。」「授業実践を踏まえ成果や課題を明確にしたい。」という場合に活用できます。

ア ワークショップ型の協議

(ア) 方法

授業を見ながら、気付きを付箋紙に書き出し、グループ協議でワークシートを囲み授業を分析する。

参考：北海道教育庁網走教育局(平成21年):『オホーツク学力向上サポートプラン 授業研究の栞』p.28
http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/okh/grp/O1/24_31_2syoun1_3syoun1.pdf

(イ) 特徴

参加者全員が共通の課題に取り組み、相互作用や双方向性を大切に、学び合いの成果を生かす体験的な取組である。

参考：北海道教育庁網走教育局(平成21年):『オホーツク学力向上サポートプラン 授業研究の栞』p.28

(ウ) 主な技法

○ 主な発散技法（アイデアが不足しているときに用いる）

技 法	特 徴	効 果
ブレインストーミング法（BS）	①批判厳禁、②自由奔放、③質より量、④相乗り歓迎の四つのルールを厳守し、自由にアイデアを出す。ポイントは、具体的なテーマを設定することである。	短時間で、全員の参加者からのたくさんのアイデアを得ることができる。
カードBS法	ルールは、BS法と同じ。個人で付箋紙1枚に一つのアイデアを書いていく。その後、書いたものを発表しながら付箋紙に貼っていく。	問題把握、問題解決のどのステップにも用いることができる。集団内の人間関係が十分でないときに効果がある。
ブレインライティング法（BW）	BSをベースに考案された技法。6人が三つずつアイデアを5分間で考え順次回していくやり方である。	前の人が書いたアイデアを利用し、そこから発想をふくらませて発展させていける。
マトリックス法	テーマが大まか過ぎるときに、発想の切り口を絞り込み、適切な方向を見付け出せる。重要なブロックをいくつか絞り込み、ブロックごとにアイデアを出す。	現状の分析をしたり、課題解決したりする場合に効果がある。

参考：茨城県教育研修センター（平成24年）:『校内研修の手引き』pp.2-3 http://www.center.ibk.ed.jp/contents/kounaiken/kounaiken_tebiki/all.pdf

○ 主な収束技法（アイデアを整理するときに用いる）

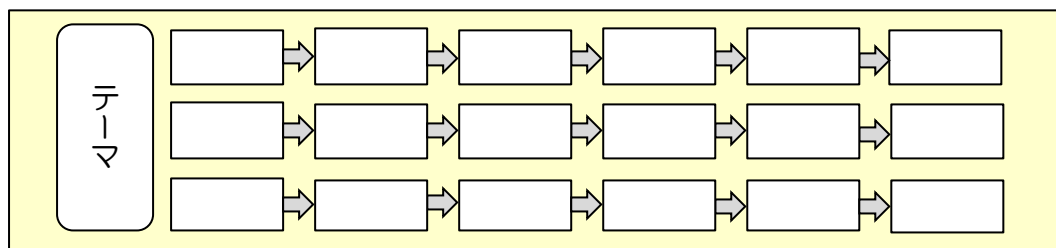
技 法	特 徴	効 果
KJ法	発散技法で出されたアイデアをグループに分けたり、価値付けしたりする場合に用いる。	多くのアイデアを整理でき、使用できるアイデアを見付けることができる。
概念化シート	縦軸と横軸の座標軸を設定し、2対になる要素を設定し、4象限で整理する。	アイデアを整理し、概念化を図ることができる。
特性要因図（フィッシュボーン）	「特性」とは問題の結果のこと、「要因」とはその原因の意味で、問題の結果（特性）がどのような原因（要因）によって起きているかを図解化して、問題点を把握し解決を考える。	問題点を分析し、改善点を見つけ出すときに有効である。特に、小グループでBS法などを用いて討議し、まとめあげるプロセスはチームづくりにも役立つ。

参考：茨城県教育研修センター（平成24年）：『校内研修の手引き』 pp.3-4

（エ）主なワークシート

ワークショップ型の研究協議では、付箋紙を張り付けるワークシートを工夫することによって、各学校の研究ニーズを踏まえ、協議を深めることができます。

○ ブレインライティング



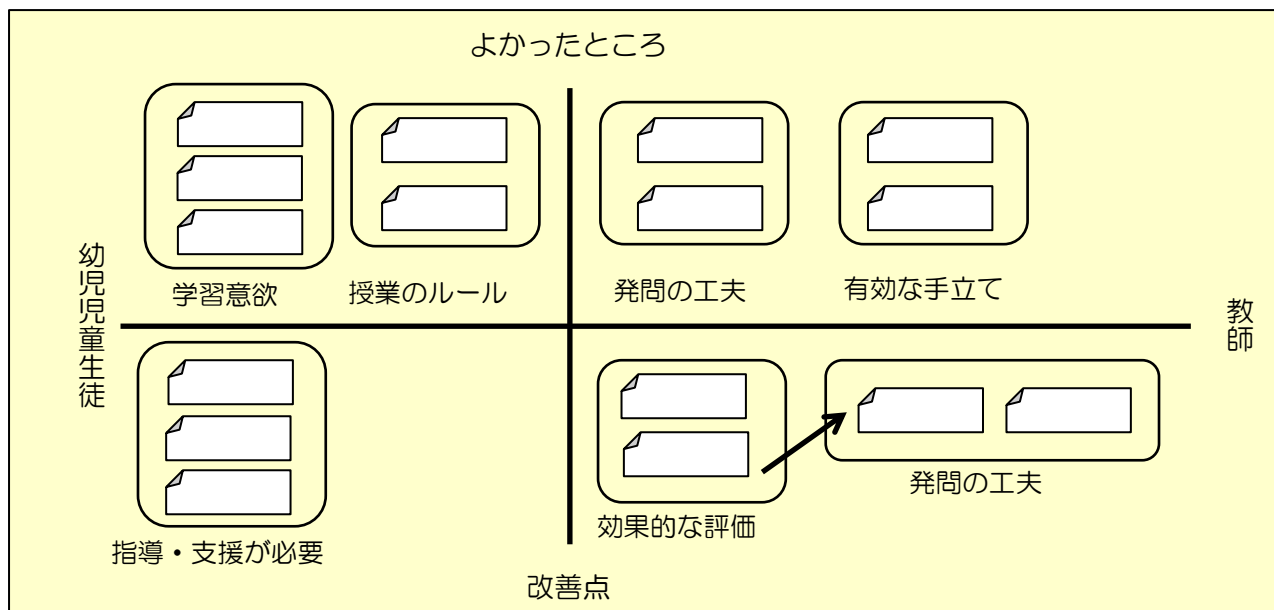
参考：独立行政法人 教員研修センター（平成26年）：『教員研修の手引き 一効果的な運営のための知識・技能一』 pp.13-14 <http://www.nctd.go.jp/pdf1/tebiki2014.pdf>

○ マトリックス法

	幼児児童生徒の姿	教師の指導・支援	その他
成果			
課題			
改善点			

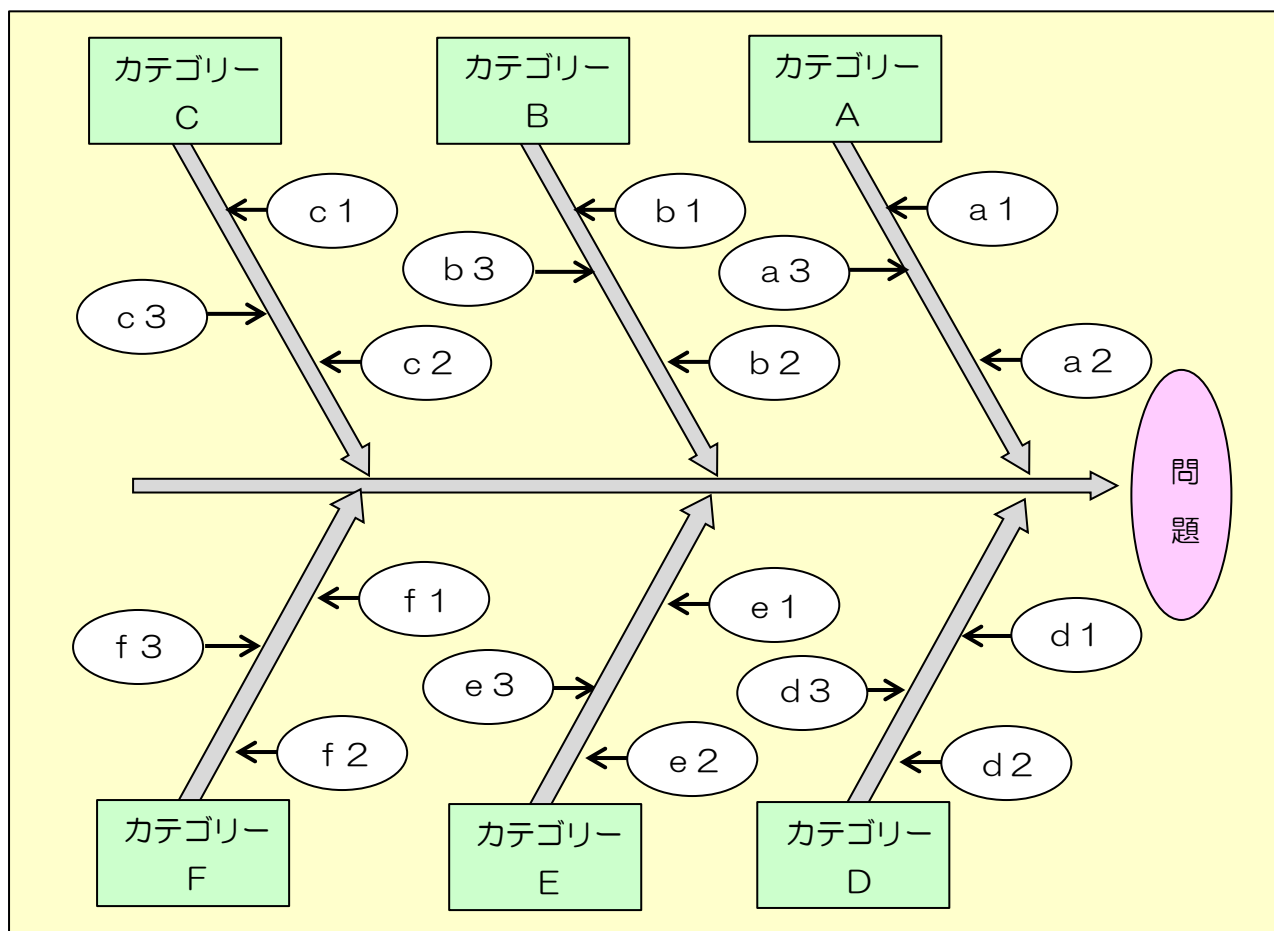
参考：秋田県総合教育センター（平成21年）：『授業研究の活性化を図るための研修方法の工夫・改善』 p.61 <http://www.akita-c.ed.jp/~ckyk/kenkyu/h21/pr1/h21pro1cover.pdf>

○ 概念化シート



参考：秋田県総合教育センター（平成21年）：『授業研究の活性化を図るための研修方法の工夫・改善』 p.61

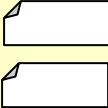
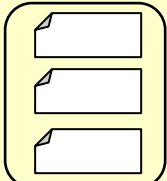
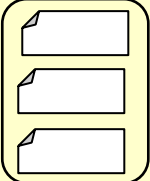
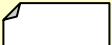
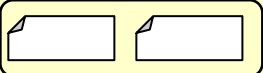
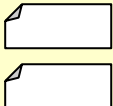
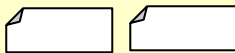
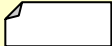
○ フィッシュボーン法



参考：独立行政法人 教員研修センター（平成26年）：『教員研修の手引き ―効果的な運営のための知識・技能―』 pp.28-29

○ 時系列シート

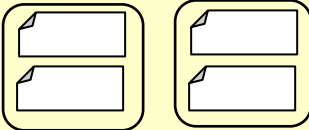
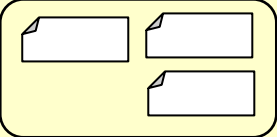
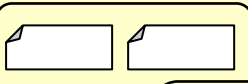
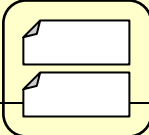
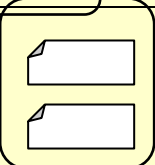
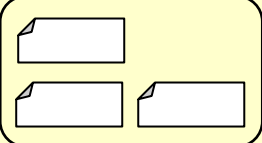
授業全体の流れに注目して協議を進める場合に効果的です。成果と課題も明確にできます。

	導 入	展 開	ま と め
+	  興味を引く導入	  発問の工夫	  効果的な評価
—	 指導・支援が必要	 	 

参考：秋田県総合教育センター（平成21年）：『授業研究の活性化を図るための研修方法の工夫・改善』 p.61

○ 指導案拡大法

拡大コピーした学習指導案に直接、付箋を貼る手法です。学習指導案と実際の授業を対比しながら進める研修に適しています。

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入			
展開			
終末			

参考：秋田県総合教育センター（平成21年）：『授業研究の活性化を図るための研修方法の工夫・改善』 p.62

イ 授業リフレクション（振り返り）を用いた協議

（ア）方法

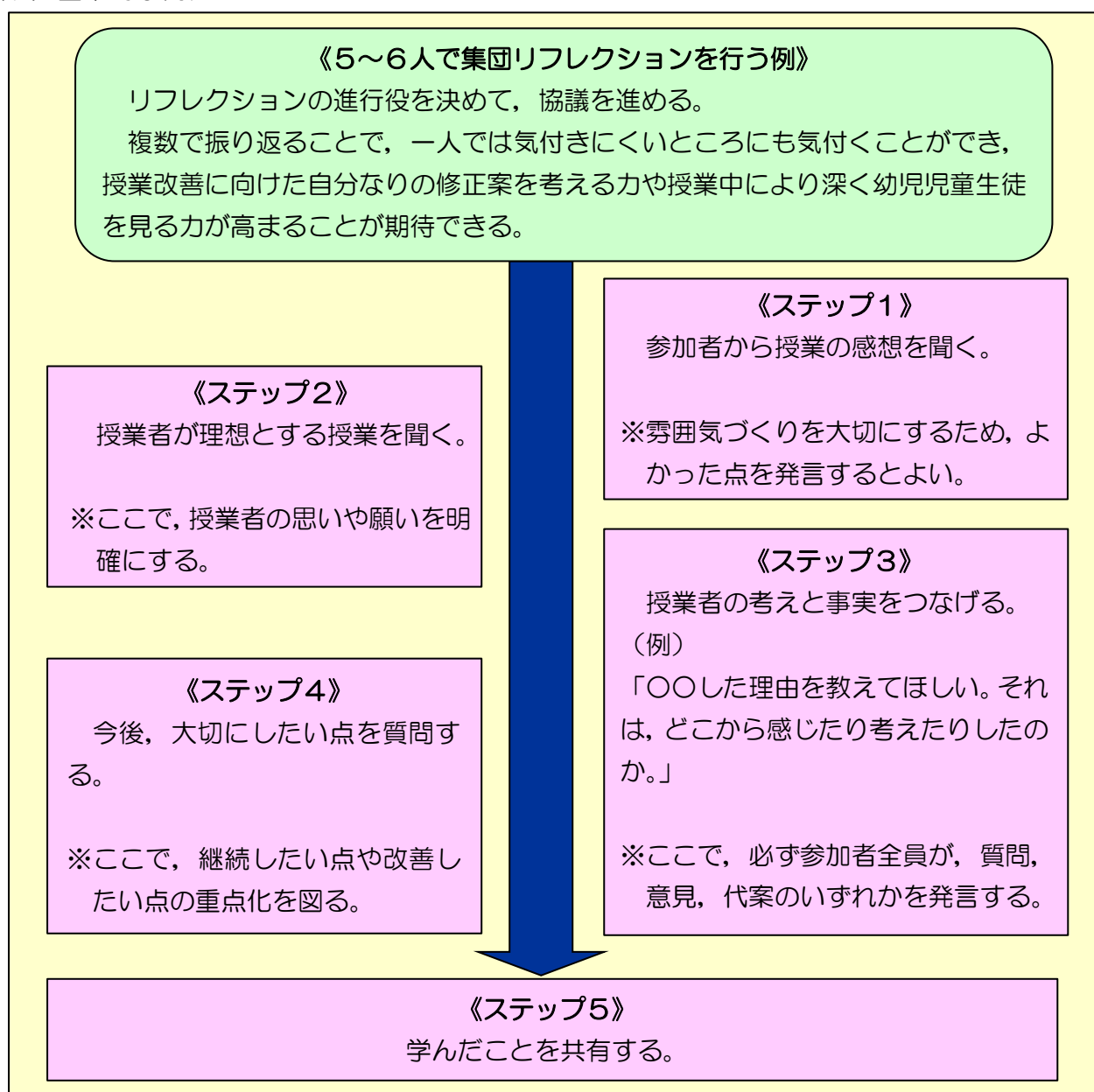
授業中に見られた幼児児童生徒の事実（発言や態度、ノート等）から幼児児童生徒の学びを解釈（「なぜ」その事実が起きたのかを考える）し、授業を振り返る方法である。

（イ）特徴

主に次の3種類がある。

- ・ 自己リフレクション：自分一人で自分の授業を振り返る方法である。
- ・ 対話リフレクション：二人から三人で対話をしながら進める方法である。
- ・ 集団リフレクション：参観者と協働で実施する方法である。

（ウ）基本的な流れ



参考：北海道教育庁網走教育局（平成21年）：『オホーツク学力向上サポートプラン 授業研究の栞』
pp.32-33 http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/okh/grp/O1/32_33_3syoun2.pdf

ウ ポイントを明確にした協議

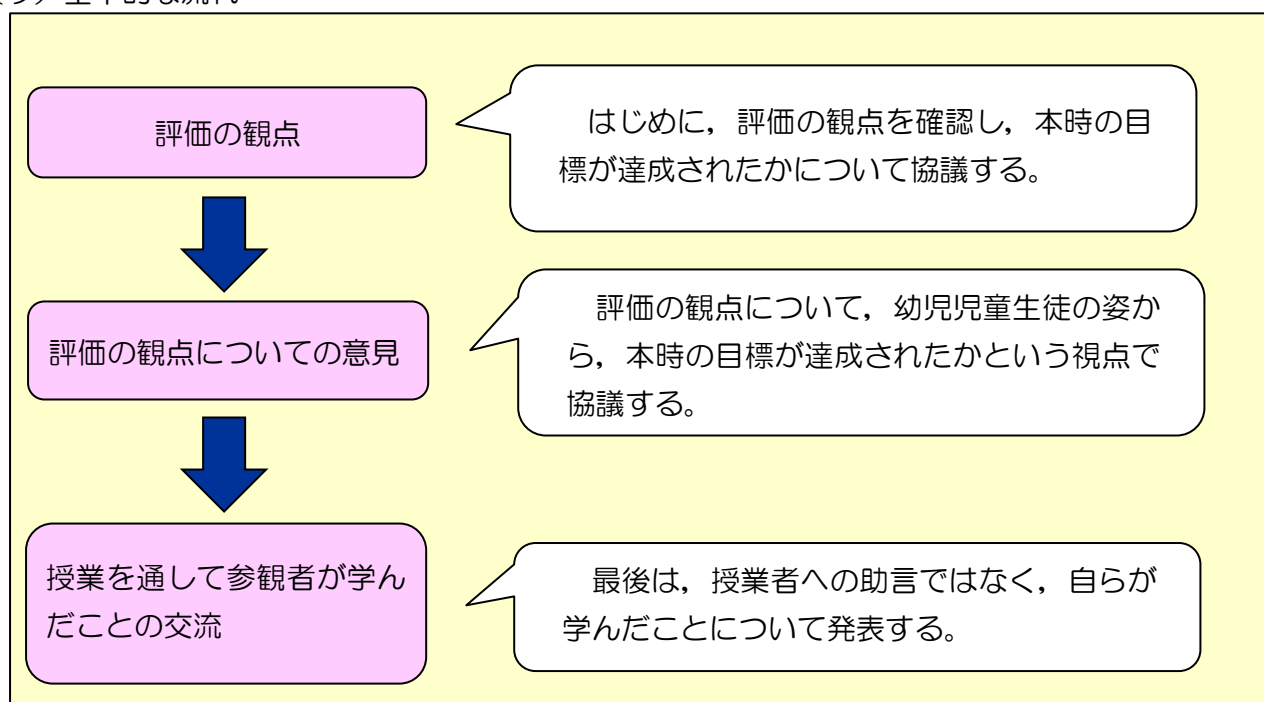
(ア) 方法

- 研究協議の視点を明確にして協議を進める。
- 授業参観では，研究協議の視点を踏まえて参観する。
- 研究協議のまとめでは，次の授業提案に向けての課題，改善すべき点等，次の段階を明らかにして確認し合う。

(イ) 特徴

参観者は，授業者への助言ではなく，その授業を参観して自ら学んだことを述べ，その多様性を交流して学び合う。

(ウ) 基本的な流れ



(エ) 留意点

グループでの協議を行う際には，グループリーダー（司会）が的確な指示や進行を行うことが大切である。

参考：北海道教育庁網走教育局（平成21年）：『オホーツク学力向上サポートプラン 授業研究の栞』
pp.34-35 http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/okh/grp/O1/34_35_3syous.pdf

エ 比較を取り入れた協議

(ア) 方法

同一学年において、複数の学級で同じ学習指導案を用いて授業を行い、比較検討しながら協議する。1日の中で「授業1」→「協議1」→「授業2」→「協議2」という流れで実施し、「協議1」で話合われた内容を「授業2」に生かすようにする。

特別支援学校では、同じ学級で2度、授業をすることで実施できる。

(イ) 特徴

1日の中で、協議を挟んで二つの授業を行うことで、協議の中で明らかになった改善点についての検証を次の授業ですぐに行うことができる。また、参観者の意見が直ちに授業に反映されるため、より主体的に協議に参加することができる。最後の協議では、二つの授業を比較することで、それぞれの授業のよさや改善点について具体的な協議ができ、協議の深まりが期待できる。

(ウ) 基本的な流れ

まず、「授業1」を行い、その後、授業についての「協議1」を行う。そこで出された課題を「授業2」の中で改善する。そして、二つの授業を比較した「協議2」を行う。

《授業1》

《協議1》

主に、授業の改善すべき点を中心に協議する。その中で、すぐに改善できるものを洗い出し、「授業2」に反映させる。

《授業2》

「協議1」で出された改善点を取り入れた授業を展開する。参観者は展開の違いによる幼児児童生徒の様子を詳しく見取る。

《協議2》

「授業1」で出された課題が「授業2」でどのように修正され、効果が上がったかを中心に協議する。

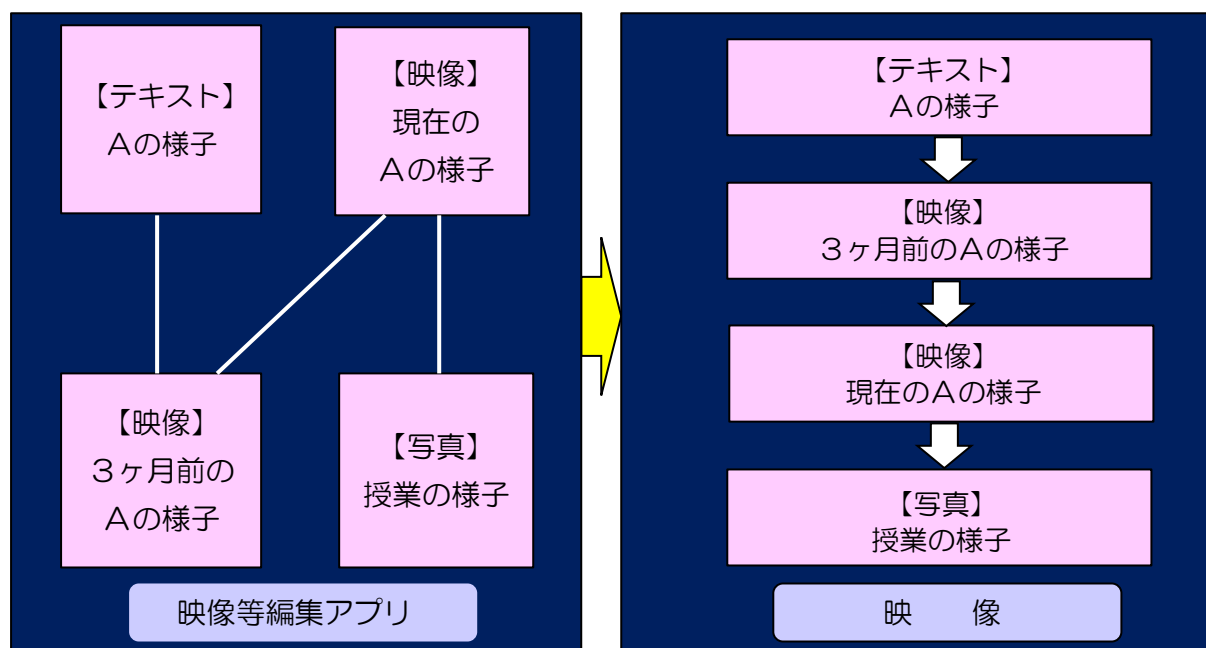
参考：北海道教育庁網走教育局（平成21年）：『オホーツク学力向上サポートプラン 授業研究の栞』
pp.36-37 http://www.dokyojoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/okh/grp/01/36_37_3syoun4.pdf

(4) ビデオ・音声記録を有効に活用する方法

「授業参観する時間が確保できない。」「ビデオ等の具体的な活用場面がない。」という場合に活用できます。映像等を編集するときに、ICT機器が使用できます。

○ ICT機器を使用する例

写真、動画、テキスト、手書きなどを、簡単に編集することができるアプリを活用します。アプリを活用することで、研究授業の様子だけでなく、幼児児童生徒の実態を知らせることもできます。例えば、タブレット型端末に保存した幼児児童生徒の現在の様子と過去の様子をすぐに比較することもできます。



ア 授業カンファレンスを用いた協議

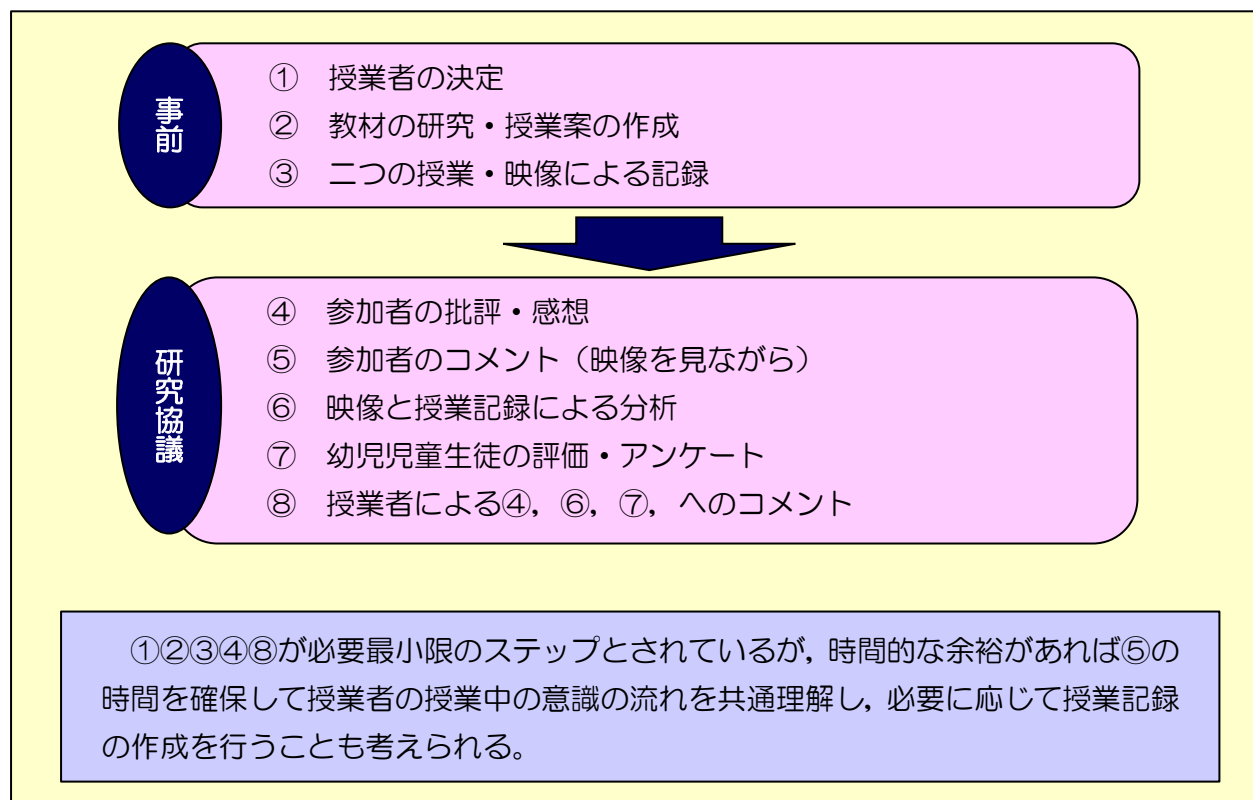
(ア) 方法

同一学年の同一教材に基づく二人の授業を参観，または映像で視聴し，それらを比較・検討しながら協議を行う。

(イ) 特徴

参加者は，幼児児童生徒を中心において自分の授業を見直し，自分とは異なった見方，問題点の指摘を得ることによって，教職員としての専門性を広げたり豊かにしたりできる。

(ウ) 基本的な流れ



参考：北海道教育庁網走教育局（平成21年）：『オホーツク学力向上サポートプラン 授業研究の栞』 pp.38-39 http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/okh/grp/O1/38_39_3syoun5.pdf

イ ストップモーション法を用いた協議

(ア) 方法

映像を活用し、授業の細部に即して授業を検討する。授業の映像を視聴し、映像を一時停止しながら参加者が発言し、必要に応じて議論する。

(イ) 特徴

授業について細かな分析を行い、授業の力量を高めるため、具体的な授業場面に即した検討が行いやすい。

(ウ) 基本的な流れ

- ① 授業の映像を視聴する。
- ② 参加者の挙手等で映像を止め、発言してもらう。(必要に応じて議論)
- ③ 「①」「②」を繰り返す。
- ④ 明らかになった課題等のまとめを行う。

(エ) 留意点

- 画像を一時停止して議論するタイミング
 - ・ 参加者が遠慮している場合には、司会者や主催者が積極的に口火を切って映像をストップする。
 - ・ 授業の切り口がつかみにくく、発言しにくい場合は、授業者に意図を質問するなどして、議論をスタートさせる。
- 時間が掛かり過ぎるとき
 - ・ 早送りする。
 - ・ 1単位時間全てではなく、5分から10分の一部の場合を集中して検討する。
- 授業者を集中攻撃しないこと
 - ・ 批判するときは、代案を出すようにする。
 - ・ 教職員の行動の良し悪しを評価しようとするのではなく、教職員や幼児児童生徒の思考を明らかにすることを意識する。

参考：北海道教育庁網走教育局（平成21年）：『オホーツク学力向上サポートプラン 授業研究の栞』
pp.40-41 http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/okh/grp/O1/40_41_3syoun6.pdf

ウ 再生刺激法を用いた協議

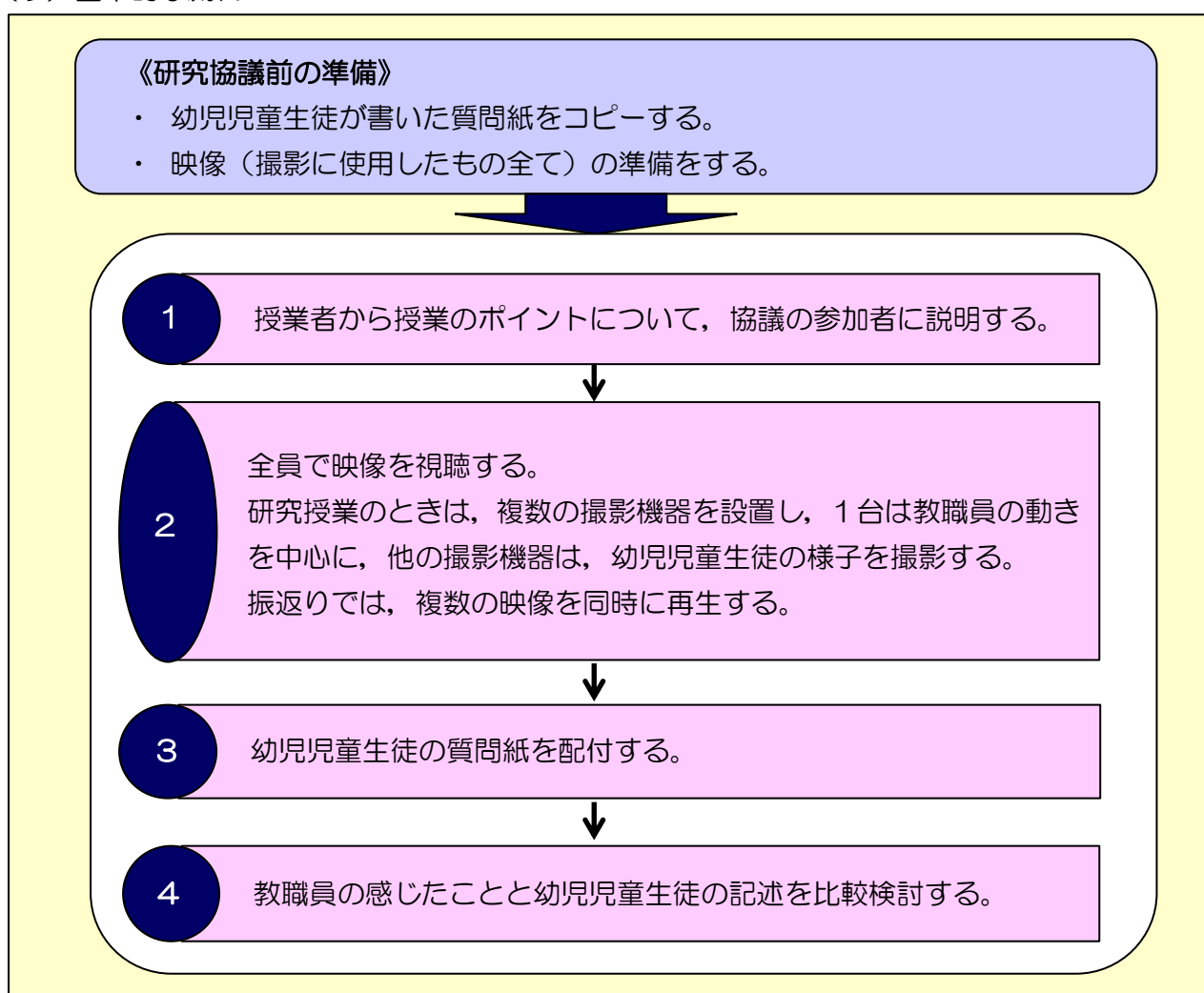
(ア) 方法

授業における最も重要なポイント等を映像に録画したものを幼児児童生徒に視聴させ、そのときの思考を質問紙によって問う。

(イ) 特徴

授業者と参観者が、映像と質問紙を活用することで授業の流れや授業者の動きをイメージしやすくなり、授業中の幼児児童生徒の様子や考えなどと授業者の働き掛けの関係をより明確にして協議ができる。

(ウ) 基本的な流れ



(エ) 留意点

再生刺激法は、映像を活用しながら幼児児童生徒が授業を振り返ることで、幼児児童生徒の自己評価を充実させるとともに、教職員の授業改善につなげる方法だが、研究協議において、授業者や参観者を振り返る際にも有効である。

参考：北海道教育庁網走教育局（平成21年）：『オホーツク学力向上サポートプラン 授業研究の栞』
pp.42-43 http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/okh/grp/O1/42_43_3syoun7.pdf

(5) 研究授業の改善策を検討する研究協議

「授業改善の視点を明確にしたい。」「授業者の意図を踏まえた振返りにしたい。」という場合に活用できます。

ア ロジック・ツリーを用いた授業の振り返り

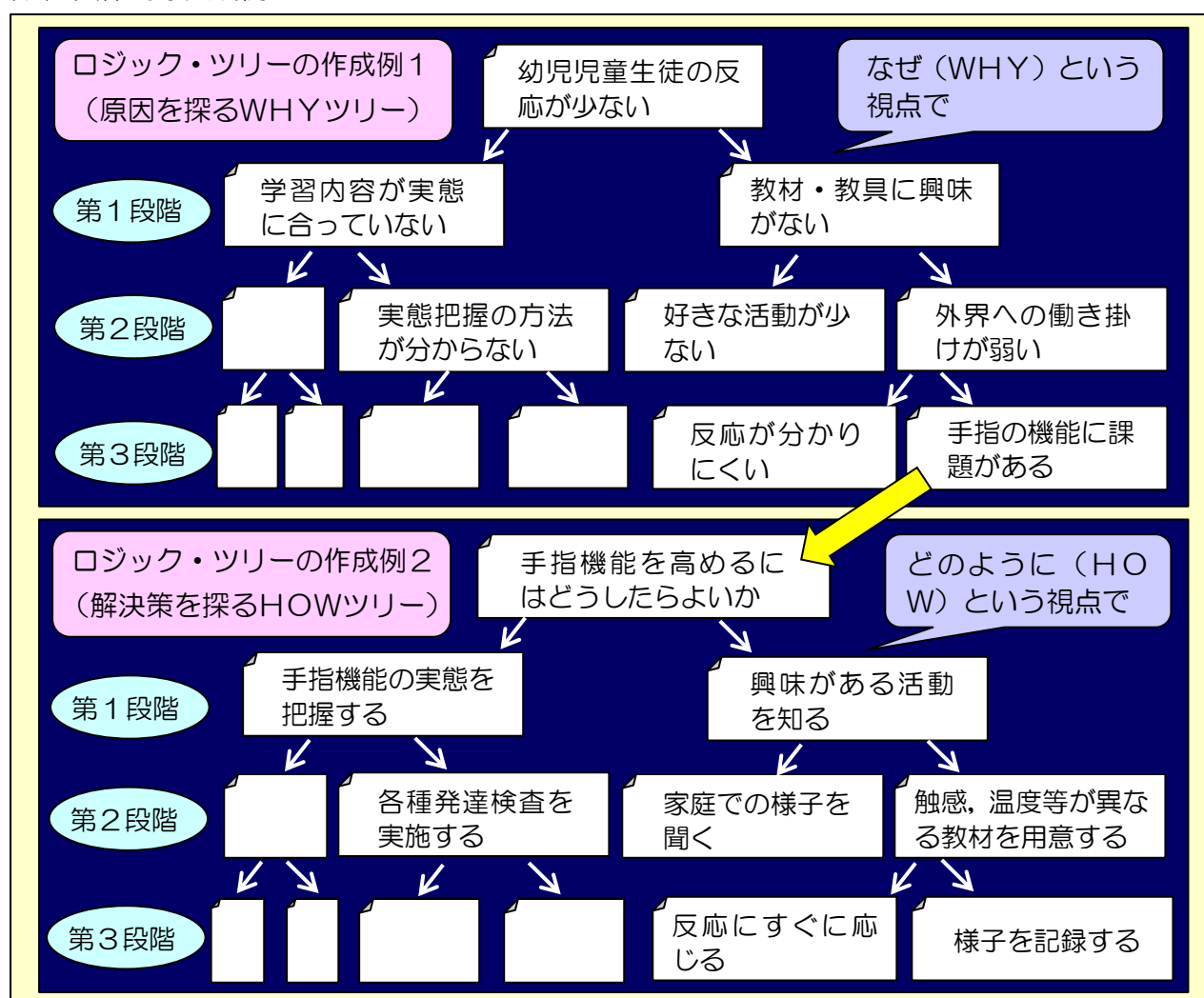
(ア) 方法

授業者や参観者が授業で印象的だったことを一つだけ簡単な単語としてカードに書き、その原因や解決策を探る。単語に書かれたカードを「なぜ」や「どのように」という視点で分析し、その結果によって得られた単語を別のカードに書き、さらに分析を繰り返す。それをツリー状に並べていくことで、授業研究を深める。

(イ) 特徴

最初から様々な考えを出していく方法ではなく、一つのカードから二つのカード（方法や特徴等）を考え出し、ツリー状に並べていくことで、思考を整理しながら深めることができる。

(ウ) 具体的な実践例



参考：北海道教育庁網走教育局（平成21年）：『オホーツク学力向上サポートプラン 授業研究の栞』
pp.44-45 http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/okh/grp/O1/44_45_3syous8.pdf

イ 振り返りシートを活用した協議

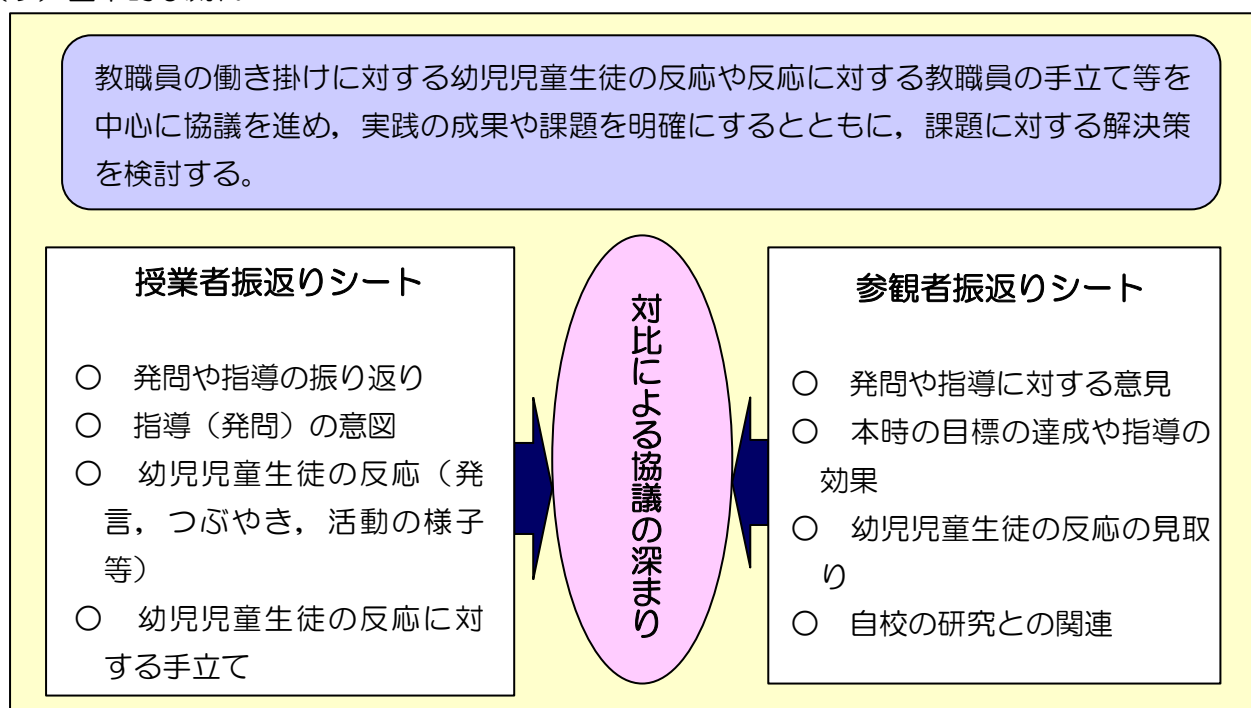
(ア) 方法

授業者が授業で、何を見て、どのように考え、進めていったのかなど、授業者の内面を明らかにすることで、授業の流れを共感的に理解することができる。参観者も同様の振り返りシートに気付いた点などを記入し、両方を併せて協議することで、授業についての多面的な分析をすることができる。

(イ) 特徴

参観者からのシートを見返すことで、授業の改善点などを明らかにし、次時につながる授業プランを導き出すことができる。

(ウ) 基本的な流れ



(エ) 留意点

教職員一人一人が授業を充実するための個人目標を設定し、特に意識する視点を選び、その視点を中心とした授業を構想する。授業の構想と実際の授業とのずれを丁寧に見ていき、新たな気づきをもとに授業改善につなげていこうとする姿勢が大切である。

参考：北海道教育庁網走教育局（平成21年）：『オホーツク学力向上サポートプラン 授業研究の栞』
pp.46-47 http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/okh/grp/O1/46_47_3syoun9.pdf

ウ 学びの履歴シートを活用した授業の振り返り

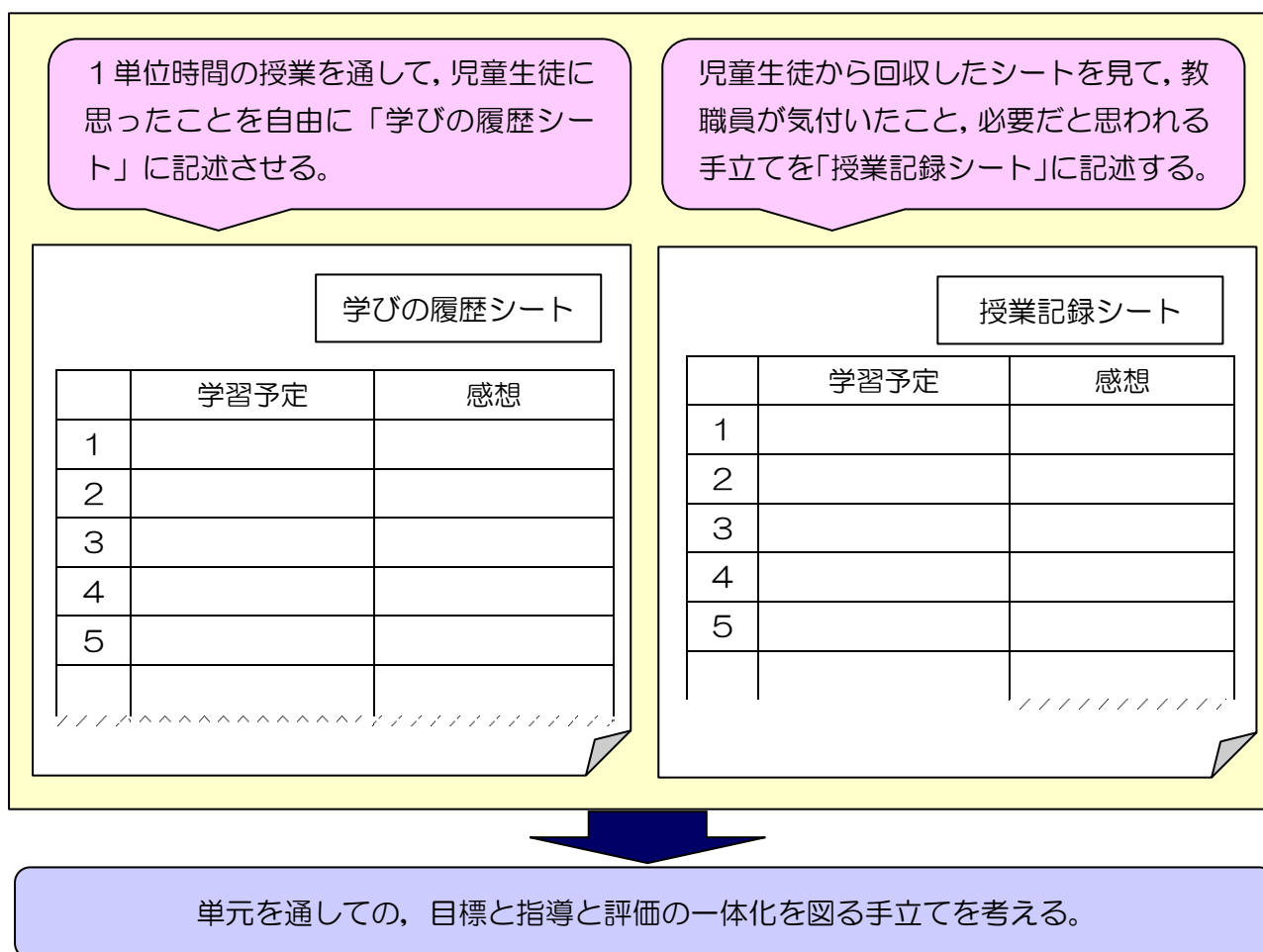
(ア) 方法

毎時間、授業の終わりに、児童生徒が授業で気付いたことや感じたことをシートに記録する。授業者は、このシートを読み返し、授業ごとの児童生徒の状況を考え合わせながら、読み取ったことを気付きとして記入し、それをもとに授業改善する。

(イ) 特徴

授業ごとの記述が、単元を通して示されるワークシートを用いることで、児童生徒一人一人の学びの履歴と向き合った授業研究を単元レベルで行うことができる。また、児童生徒自身が自己評価シートとして自分の学びを振り返る効果も期待できる。

(ウ) 具体的な実践の事例



参考：北海道教育庁網走教育局（平成21年）：『オホーツク学力向上サポートプラン 授業研究の栞』
pp.48-49 http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/okh/grp/01/48_49_3syoun10.pdf

(6) ファシリテーター（司会者）の役割

ファシリテーターには、1年間の授業研究の企画、運営、振り返り等の研究推進に係る役割と、研究授業の研究協議に係る役割があります。

ア 1年間の授業研究に係る役割

- 校内授業研究のデザインをする。
 - ・ 研究主題を具体化し全員でイメージを共有化する。
 - ・ 1年間の研究のねらい（ゴール）を明確にする。
 - ・ 推進委員会等で1年間の流れを確認し、全員で共有化する。
 - ・ 日程、授業者、講師等を決定し、役割を明確にする。
 - ・ 研究に当たっての約束事を確認する。
- 研究内容、方法について確認する。
 - ・ ワークショップ型で全員が意見を出し合い、合意形成する。
 - ・ 全員が研究のねらい（ゴール）を共有化し、「何を明らかにするのか」を明確にする。
- 推進委員会を活性化する。
 - ・ 推進委員会を定期的開催し、毎回の授業研究会の振り返りをする。
 - ・ 前回の授業研究会を次回の授業研究会へつなげる具体策を検討し、「見える化」する。
【例】 検討された内容をまとめ、職員室に掲示したり、全員に配付したりする。
- 毎回の授業研究会をデザインする。
 - ・ 毎回の授業研究会のねらい（ゴール）を明確にする。
 - ・ ワークショップ型をどのように進めるかをデザインする。
【例】 進行表を作成し、進行役、授業者、講師等の役割を明確にする。
グループをどのように作るか決め、会場や机の配置を決める。

参考：横浜市教育センター（平成19年度）：『授業力向上の鍵3 ～校内授業研究の活性化に向けて～』
<http://www.edu.city.yokohama.jp/tr/ky/k-center/kenkyu/jugyouryokukoujounokagi3.pdf>

イ 研究協議に係る司会者の役割

- あらかじめ会の進行の仕方や時間配分について検討する。
- 参加者全員の発言を引き出すように、和やかで話しやすい雰囲気になるように心掛ける。
- 授業者に集中して一問一答の受け答えをさせたり、褒め言葉や感想に終始したりすることのないようにする。
- 発言者の偏りや長時間の発言がないようにする。
- 発言された意見が閉ざされたものではなく、次の発言につながるようにする。
- 建設的で事実に基づく率直な意見の交換になるようにする。
- 協議のねらいに沿った進行とする。ねらいから外れるようであれば軌道修正する。
- 指導・助言者がいる場合は、指導・助言時間を確保できるよう、臨機応変な進行に心掛ける。
- 司会者が気付かないところで手助けするために、補助者を付ける方法もある。

参考：神奈川県立総合教育センター（平成20年）：『高等学校版 授業改善のための授業分析ガイドブック』
p.54 <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kankoubutu/jyugyo-kaizen-bunseki-gaido.pdf>

6 授業改善について

研究協議で出された意見等を，その後の授業に生かさせなくてはなりません。そのためには，研究協議の内容を共有することと，協議の日常化を図ることが必要です。ここでは，研究協議の内容を共有する方法及び研究協議の内容を可視化することで，協議の日常化を図る方法を紹介します。

(1) 研究協議の内容を，学校全体で共有させる方法

ア 研究だよりの発行

○ 研究だよりの項目例

研究主題と設定理由
実態把握等の結果
協議会で出された主な意見
研究を深めるための一冊
成果と課題
今後の取組とのかかわり
研究主任のまとめ

参考：広島県立教育センター（平成26年）：『授業研究ハンドブック』 p.29

イ ホームページへの掲載の例

○ 黒瀬特別支援学校

平成 26 年度黒瀬特別支援学校校内授業研究会	
〇〇部 校内授業研究会	
日時	指導助言者氏名
学年学級	
研究授業	
授業者氏名	
〇〇部研究テーマ	
協議の柱	
授業者から	
協議内容	
指導・助言者から	

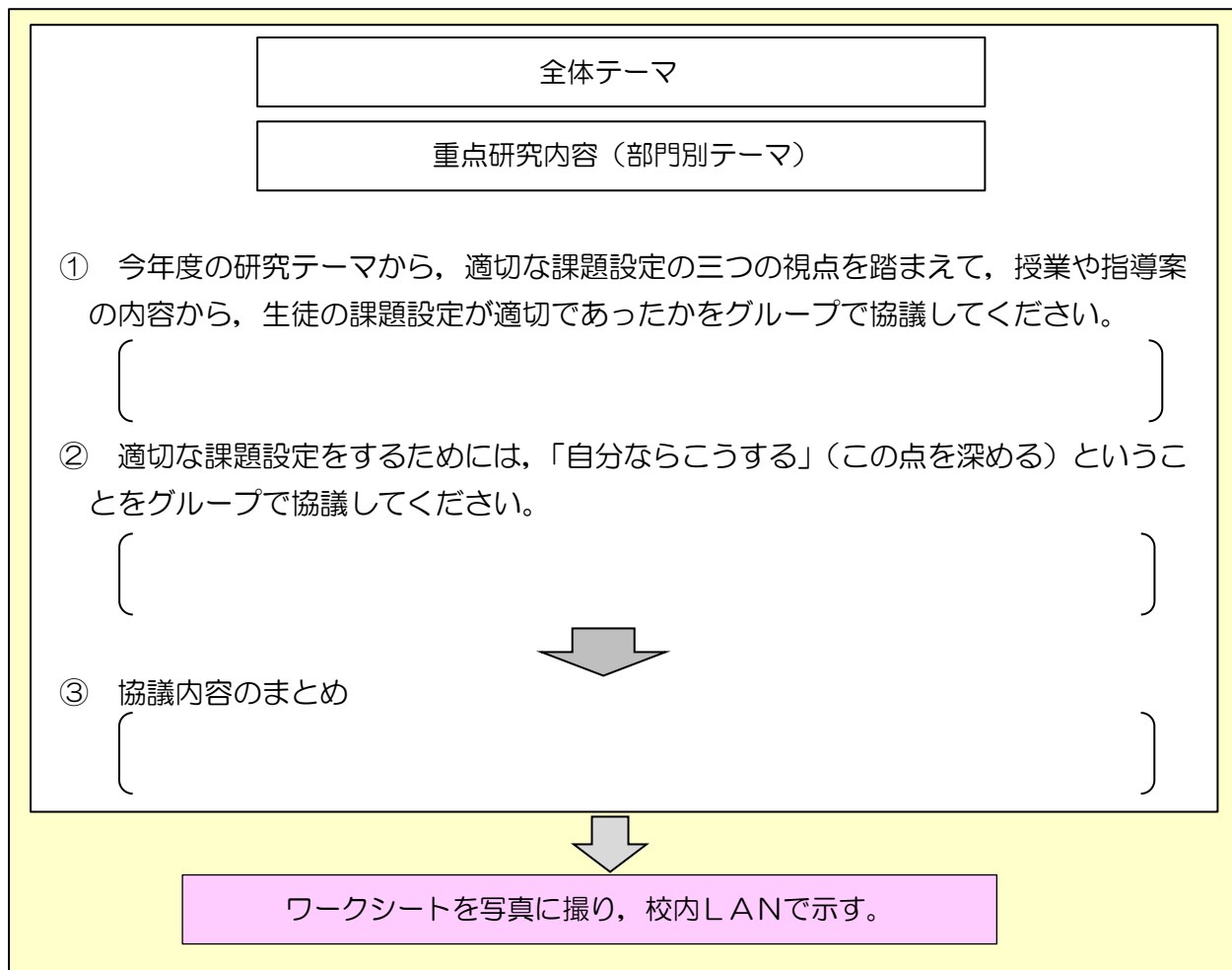
→ HPで示す。

参考：広島県立黒瀬特別支援学校（平成26年）：『教育研究』 <http://www.kurose-sh.hiroshima-c.ed.jp/shoukai/kennkyu/kenkyuu.html>

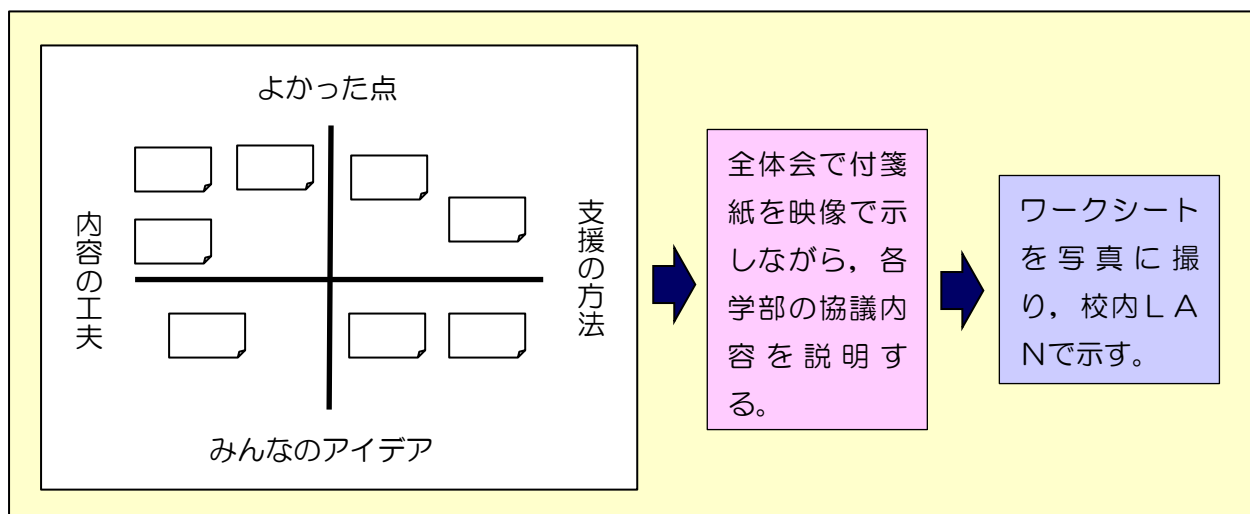
(2) 研究協議の内容を、その後の授業に生かす方法

ア 協議内容の可視化の例

○ 尾道特別支援学校



○ 沼隈特別支援学校



イ 授業改善シートの例

○ 福山北特別支援学校

授業評価表

日時・場所	平成 年 月 日 () 校時
学部・学年・学級・グループ	部 () 年

事項	評価の観点	評価	気付き (自分ならこうする等具体的に)
目標設定	個々の実態を踏まえた目標を設定していたか	A・B・C	
	評価しやすい具体的な目標を設定していたか	A・B・C	
学習過程	個々の目標を達成するために適切な配慮や指導をしていたか。	A・B・C	
	個々の実態に応じて適切な教材・教具や補助具等を活用していたか。	A・B・C	
	学習活動の展開（導入，展開，まとめ）や時間配分は適切に行われていたか	A・B・C	
	個々の実態に応じた適切な活動量を確保し，個々の学習内容が充実したものとなっていたか。	A・B・C	
	メインティーチャー，サブティーチャーが連携する中で，お互いの指導内容が明確になっていたか	A・B・C	
評価	本時の目標が達成できたか	A・B・C	
	個々の目標が達成できたか	A・B・C	
	個々の実態，目標，学習活動，評価は一貫性があったか。	A・B・C	
今年度の研究テーマの観点からの所見			
全体を通しての所見（感想・意見・質問等）			

A…あてはまる B…ややあてはまる C…あまりあてはまらない

○ 沼隈特別支援学校

H26年度 沼隈特別支援学校一人一細案授業改善シート（例）

日時（ ）

記入者（ ）

研究主題「 」

学部研究目標	
授業名	
授業目標	

1 授業評価表

授業場面	本時の様子、気づき	次時の授業改善に向けて
《例》 ① はじめの挨拶をする ② 本時の活動内容を知る ③ カレンダーをつくる ④ 片付けをする ⑤ 振り返りをする ⑥ おわりの挨拶をする		

2 討議の柱

	討 議 の 柱	評価欄 1 2 3 4 5 └─┴─┴─┴─┬─┘
ア	目標達成のための内容の工夫は適切であったか	└─┴─┴─┴─┬─┘
イ	目標達成のための支援の方法は適切であったか	└─┴─┴─┴─┬─┘

参考：広島県立沼隈特別支援学校（平成26年）：『教育研究』 <http://www.numakuma-sh.hiroshima-c.ed.jp/kenkyu/h26/h26kenkyuu/h26kaizensheet.pdf>

引用・参考文献

- (1) 広島県教育委員会（平成19年）：『特別支援教育ハンドブックNo.1』
- (2) 岩手県総合教育センター：『実態把握』
- (3) 一般財団法人特別支援教育士資格認定協会編（2012）：『S.E.N.S養成セミナー 特別支援教育の理論と実践 I 概論・アセスメント』 金剛出版
- (4) 広島県教育委員会（平成20年）：『特別支援教育ハンドブックNo.2』
- (5) 広島県立福山特別支援学校（平成27年）：『重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト ―認知・コミュニケーションを中心に―』
- (6) 広島県教育委員会（平成15年）：『授業改善のための校内研修ハンドブック』
- (7) 広島市教育センター（平成18年）：『授業研究ハンドブックⅡ』
- (8) 広島県立教育センター（平成26年）：『授業研究ハンドブック』
- (9) 広島県教育委員会（平成26年）：『平成26年度広島県教育資料』
- (10) 広島県立広島中央特別支援学校（平成26年）：『研究紀要第25号』
- (11) 広島県立尾道特別支援学校（平成26年）：『授業改善』
- (12) 広島県立沼隈特別支援学校（平成26年）：『平成25年度研究紀要』
- (13) 広島県教育委員会（平成18年）：『盲・ろう・養護学校授業改善ハンドブック』
- (14) 名古屋市教育センター（平成23年）：『自ら授業力を高める校内研修マニュアル』
- (15) 広島県立庄原特別支援学校（平成27年）：『平成26年度研究紀要』
- (16) 広島県立広島中央特別支援学校（平成26年）：「平成26年度広島県立教育センター専門研修講座『特別支援学校における授業研究の進め方』」資料
- (17) 長崎県教育センター（平成25年）：『校内研修のてびき【特別支援学校版】よりよい学校づくりを目指した計画的・組織的・継続的な校内研修の推進』
- (18) 北海道教育庁網走教育局（平成21年）：『オホーツク学力向上サポートプラン 授業研究の栞』
- (19) 茨城県教育研修センター（平成24年）：『校内研修の手引き』
- (20) 独立行政法人 教員研修センター（平成26年）：『教員研修の手引き ―効果的な運営のための知識・技能―』
- (21) 秋田県総合教育センター（平成21年）：『授業研究の活性化を図るための研修方法の工夫・改善』
- (22) 横浜市教育センター（平成19年度）：『授業力向上の鍵3 ～校内授業研究の活性化に向けて～』
- (23) 神奈川県立総合教育センター（平成20年）：『高等学校版 授業改善のための授業分析ガイドブック』